

所得稅法改正法律案特別委員會議事速記錄

第七十五
帝國議會
貴族院會
所得稅法改

昭和十五年三月十九日(火曜日)午前十時

○委員長(伯爵林博太郎君) 是ヨリ所得稅法改正法律案外三十六件ノ特別委員會ヲ開會致シマス、昨日ニ續キマシテ質問ヲ願ヒ
マス

私共カラ考ヘト、甚ダ失禮ナ申シ様デハアルケレドモ、少シ其ノ體系ト云フコトニ重キヲ置キ過ギハシナカツタカト云フヤウニ心配スルノデアリマシテ、例ヘバ國稅ハ、何ト言ヒマスカ人稅、物稅ノ區別トカ、ソレカラシテ應能稅、應益稅ト云フヤウナ區

税ト法人税ト云フモノトノ「バランス」ガ少シ取レテ居ラナイデヤナイカト云フコトヲ考ヘル譯ナノデアリマシテ、デ此ノ法人税ト云フモノハ、是迄ノ所得稅法ニ依リマスト、申サバ個人ト同シ地位ニ立ッタ云フカ、個人ト同ジ地盤ノ上ニ立ッテ、詰リ収益

セラレルト云フ工合ニナツテ居ルヤウニ見
エルノデアリマス、詰リ此ノ個人ガ經營スル
ル事業、ソレカラシテ法人トシテ經營スル
事業、サウ云フヤウナ方面カラ色々々舉ツテ來
ルモノヲ、個人ノ綜合所得稅デ捉ヘル、斯
ウ云フヤウナ建前ニナツテ居ルヤウニ見エ

○浦新七君 私ノ質問が 所謂一般的ノモノデアルカ、各論的ノモノデアルカ、チヨット不明ト言ヒマスカハッキリ致シマセヌノデゴザイマスガ、マア大臣ガオイデニナル迄ノ間ノ繫ギト云フヤウナ意味デ一ツ申シタイト思ヒマス、此ノ税制改正關係法律

別トガ、地方税ト國税ト云フモノハサウ云
フ見地カラ區別スルシングト云フヤウナコト
ガ考ノ申ニ強ク入シテ居ルヤウニ見受ケマ
ス譯デアリマシテ、從シテ此ノ地方税ヲ考ヘ
ル場合ニ、營業税ト云フモノガ多少……デ
ヤナニ餘程多ク、應益稅ト申シマスカ應能

ノ主體ト考ヘテレテ居ル事業ノ主體アリ
詰リ總テ個人ト同ジヤウナ地位ニ於テ考ヘ
ラレタ譯ナノデアリマシテ從ツテ課稅スル
稅率ト云フヤウナモノモ、個人ノ場合ヲ先
ヅ考ヘテ、ソレニ比較シテ法人ガドレ位ト
云フヤウナ點ニ於テ違フノデアルカ、ト云

ルノデアリマシテ、是迄段々譲メラレヤ來
タ會社ト、法人ト云フモノノ獨立企業者タ
ルノ地位、獨立シテ此ノ企業ヲヤリ、從ツ
ソレ自ラノ收益ノ主體ト云フモノニナルノ
ダト云フコトガ、稍、明カデナクナッタノデ
ヤナイカ、斯ウ云フ工合ニ疑ハレルノデア

案要旨説明ト云フモノニモ書イテゴザイマ
スシ、ソレカラ又昨日本會議ニ於ケル大臣
ノ説明ニモゴザイマシタノデアリマスガ、
此ノ今回ノ改正ハ、是迄所得稅ヲ中心トシ
テ、收益稅ヲ以テ之ヲ補完スルト云フ主義
ヲ捨テテ、サウシテ所得稅一本ニシテヤル
ノダ、斯ウ云フ御話ニアッタノデアリマスガ、
其ノ場合ニ於ケル所得稅ト云フモノト、ソ
レカラ法人稅ト云フモノトヲ分ケタ其ノ理
由ガ何處ニアルカト云フコトガ、問題ノ中
心ニナル譯ナンデアリマス、元來申ス迄モ
ナク稅ノ體系トカ云フヤウナコトハ、是ハ
モウ學校デヤルコトナノデアリマシテ、議
會テ云々スベキ問題デナイコトハ心得テ居
ヒマスカ、サウ云フヤウナコトガ強ク入ッテ
居ルヤウニ見受ケラレル譯ニアリマシテ、

稅ノ性質ヲ持ツテ居ルニ拘ラズソレヲ地方
稅デ取リナガラ、他方ニ於テ其ノ配當所得
ハ地方稅デ取ラヌ、是ハ取ルベキ性質ノモ
ノデナイト云フヤウナコトデアリマシテ、
ソレガ爲ニ同ジク、言葉ガ惡イノデスガ不
當利得ト申シマスカ……不當利得デヤナイ、
不勞所得ト申シマスカ詰リ直接ニ事業ニ關
係シナイデ發生スル收入、サウ云フモノノ
中デ、土地收入ト配當收入ノ間ノ平均ガ失
ハレテ、土地ノ方ハ、國稅ノ方ヲ負擔スルト
同時ニ地方稅ヲ負擔シ配當ニ依ツテ生ズル利
益ト云フモノハ地方稅ハ全然負擔シナイ、
斯ウ云フ所カラシテ非常ニ大キナ……非常
ニト云フ程デハアリマセヌガ、相當大キイ
殆ド倍額ニ近イ負擔ノ權衡ヲ失スルト云フ
ヤウナコトニナシテ來タノデヤナイカ、是ハ
マア色々議論モアリマセウシ、是ハ差同キ
此ノ委員會ノ問題デアリマセヌカラ問題外
ニ致シマシテ、茲デ問題ニナルノハ、所得

フコトヲ考へテ税率ヲ加減シ、負擔ヲ加減スル、斯ウ云フ合ノ地位ニアッタノデアルト思フノデアリマス、今度ソレヲ全然分ケマシテ、所得税ト法人税ヲ分ケタト云フコトガ、ドウモ少シ私ニハ分ラナイ、特別ノ意味ガアルノカ、ソレヲ御伺ヒシタイノデアリマス、詰リ此ノ法人ニハ分類所得税ヲ掛けナイ、全ク利益、純益、ソレカラ僅カバカリノ資本税ヲ課シテ居ルト云フ状態ナルデアリマス、是ハ色々見方モアリマセウガ、自分ノ見ル所デハ、寧ロ此ノ今度ノ改革案ニ依ルト、法人税ト云フモノヲ、個人ノ分類所得税ノ中ノ事業所得ト云フヤウナモノト同ジ列ニ考へテ居ル、ソレガ個人ガ事業ヲ經營シテ、ソレカラ利益ヲ得ル方俾テアルト云フコトニ重キヲ置カレタヤウニ見エマス、ソレカラ舉ツテ來ル所ノ收益ヲ、株主ナリ重役ノ勤勞所得ナリ、其ノ他色々使人ノ勤勞所得ト云フヤウナモノニ分解

リマス、詰リ會社ノ利益ト云フモノガ、株主ノ配當、重役ノ勤勞所得、賞與金ト云フモノニ謂ハバ分解サレテシマツテ、法人税ト申シマスモノハ、謂ハバ源泉課稅ノ一ツノ形式デアルト云フ工合ニ見ラレル傾向ガ著シクナツタト云フ譯デアリマス、サウ云フ譯デアリマシテ、詰リ今度ノ此ノ法人税ヲ分ケタト云フコトハ、稍々是迄段々發展シテ來タ營業ノ主體トシテ、事業ノ主體トシテノ會社、ト云フモノノ地位ヲ十分ニ認メラレナイ處ガアリハセヌカ、ソレデ申ス迄モナク、是ハ此處ニ頂戴シマシタ參考書類ヤ何カノ中ニモ明白ニ出テ居ルノダト思ヒマスガ、營業稅ノ上リ工合カラ考ヘテ見マシテモ、個人營業ノ方ハ、納メル人數ガ非常ニ多クテ、全體ノ納稅者ノ九十三「ペーセント」ハ個人デアルガ、其ノ實際ニ納メル金高ノ方カラ見ルト、僅カニ七「ペーセント」デアル、法人ノ方ハ、人數カラ言フト七「ペー

間違ヒマシタ、個人ノ方ガ人數カラ言フト七「パー
セント」デアルニ反シテ、収益ノ方ハ……
全體ノ九十三「パーセント」デアルニ對シ
テ、其ノ稅額カラ言フト三十二「パーセント」
ト、法人ノ方ハ人數カラ言フト七「パーセ
ント」デアルニ對シテ、納稅額ガ六十八
「パーセント」ト云フヤウナ工合ニ出テ來テ
居ル譯ナシニアリマシテ、結局是カラノ大キ
ナ仕事、所謂近世的ノ事業ト云フモノハ、
是ハ結局會社ノ形デ以テ經營スルヨリ外ニ
仕方ガナイヤウナ狀態ニナツテ來テ居ルノ
デアリマス、詰リ事事界ノ發展カラシテ、
當然是ハ今迄個人デ營業シテ居ツタモノガ、
段々片方ノ方ニ移ツテ行カナケレバナラヌ、
會社組織デ大キナ仕事ヲ經營シナケレバナ
ラヌト云フ傾向ガアル譯ナノデアリマス、
是ハ言フ迄モナイコトダト思フノデアリマ
ス、サウ云フ譯ナノデアリマシテ、從ツテ法
人ト云フヤウナモノモ、詰リ個人ノ經營ト
相並ンデ色々々ナ方面ノ任事ヲナツテ行ク譯
ナノデアリマス、從ツテ此ノ方面ニ於テモ、
分類所得稅ノ支配ヲ受クベキ、若シクハ分
類所得稅ヲ賦課スベキ理由ガアルノデハナ
イカ、詰リ分類所得稅ト云フモノハ、單ニ
利益バカリ見ルノデハナクシテ、其ノ利益
ノ性質如何ニ從ツテ、勤勞所得ノ場合ハドウ
デアル、不勞所得ノ場合ハドウデアルト云
フ工合ニ區別シテ、收益ノ區別ニ從ツテ課稅
シテ行ク、其ノ趣意カラシテ、自ラ法人ト
云フモノニモ適用セラルベキ性質ノモノデ
ナイカ、其ノ法人ト云フモノヲ、是迄ノ商
法ノ考ノ如ク單純ニ營利事業ヲ、營利ヲ目
的トシテ集ツタ團體デアルト云フ工合ニ解釋
シテ、其ノ外ニ目的ガナイノデ、單純ナ營
利デアルト云フコトニナリマスレバ、サウ

云フ見地カラ行ケバ、ドンナ事業ヲヤラウト、結局利益ヲ捉ヘテソレニ課税スレバ宜イト云フコトニナル筈デアリマスガ、今日レバナラヌ、個人ト同ジヤウナ工合ニ分レテヤラナケレバナラヌ、從ツテ其ノ會社ト云フモノノ利益ノ中ニモ、本來ノ性質上、利益ノ多イモノト少イモノ、若シクハ保護スベキ利益、相當ニ是ハ徵收シテモ宜イ性質ノ利益ト云フモノガアル筈ノナデアリマス、詰リ一般ノ所得稅ノ原則ヲ此ノ方ニ適用スルト云フコトモ決シテ意味ノナインコトデハナイノデ、ゾコヘ持ツテ行シテ、サウ云フヤウナコトヲシタ上デ、又會社ト云フモノハ色々ナ事業ヲヤッテ居ル譯ナノナアリマス、其ノ上ニ所謂綜合的ノ課税ヲスベキデアル、勿論其ノ綜合課税ノ主義ハ、此ノ個人トハ性質ヲ異ニスベキモノニアラウ、課税ノ標準ハ、一緒ニシタコトニ依ツテ生ズル利益ヲ對象トシマスカラ、資本額ト云カ何トカ云フヤウナコトモ十分ニ考慮シナケレバナラヌ、又ソレカラ生ズル所ノ利益ノ割合ト云フヤウナモノモ、今ノ考ノ中ニ入レテ置カナケレバナラヌ、現在ノ改正法律ノ中ニ於テ、臨時利得稅ノ中ニ入ツテ居ル是迄ノ超過利得稅デスカ、サウ云フモノガ本來主體ニナツテ、此ノ法人ト云フモノノ總合所得稅ト云フモノニナツテ來ベキモノデアルト云フヤウナ工合ニ考ヘラレル、サウ云フ譯デアリマシテ、ソレハ片方ノ方デ、今ノ超過利得稅ト云フヤウナモノハ外ノ方題ハアリマセヌ、別ニ形式ヲヤカマシク言フ譯デハナイノデアリマス、兎ニ角會社ト

云フモノノ獨立性ヲモウ少シ尊重スベキニ、單純ニ利益ヲ得ル目的デ以テ拵ヘタ團體デアルト云フ見地ニ立ツカラシテ、衆議院ヤ何カデ議論ガアツタヤウニ、事實ハソレヲ會社デ取ラレ、其ノ上ニ法人ニ配當サレル、其ノ外ニ取ラレルノダカラ、利益ノ何分ノ一ニナルノダ、七八分ハ皆取ラレテシマツテ、非常ニ重イ負擔ニナルヂヤナイカト云フヤウナ議論ガ出テ來ルノダラウ、是ハ法人ノ利益、從ツテ課稅ノ對象トナルモノト、其ノ株ヲ持ッテ利益ヲ得テソレガ課稅ノ對象ニナルト云フコトハ、全ク違ツタ性質ノモノナンデアリマス、是ハマア色々議論モゴザイマセウガ、兎ニ角我々ガ會社ニ勤メル、若シクハ會社ニ勤タル子弟ノ心得方ヲ聞イテ見ル、若シクハ教ヘテ居ルト云フヤウナ場合ニ於テ、決シテ我々ハ株主ノ爲ニ働ケ、若シクハ重役ノ爲ニ働ケト云フヤウナ心持デヤッテ居ルノデハネイ、全ク其ノ事業ノ爲ニ、其ノ事業ヲ經營スル其ノコトノ爲ニ働イテ居ル、法人ト云フモノハリマス、重役ト雖モは度々迭ル譯ナンデアリマス、アリマス、結局日本郵船會社ナラ日本郵船會社ト云フ獨立シタ主體ガ存在シテ、ソレガ事業ヲ經營シテ居ル形ナンデアリマス、サウ云フ今日ノ狀態ニナツテ來ル、無論ソレハ會社ノ中ニモ、サウ云フ工合ニナラナイ個人的ノ色合ノ強不會社モアルノデアリマス、多クノ場合ニ於テサウ云フヤウナ傾セウ、向ト持ツテ來テ居ルノデハナイカ、サウ云フ

工合ニ考ヘル譯ナシデアリマス、サウ云フ
ヲ考ヘテ行キマスト、ドウモ其ノ會社ノ稅
ト云フモノハ、今度ノ改正ニ於テ少シヒド
過ギヤシナイカ、昨日モ問題ニナリマシタ
是迄ノ會社ノ稅ト云フモノハ、中央地方ヲ
通ジマシテ二三・四五デアル、収益ノ一三・
四五デアル、今回ハ二四デアル、僅カニ五
厘五毛ノ増加デアルト云フヤウナコトニ
ナシテ居ル、其ノ外全體トシテ考ヘルト、臨
時利得稅ヲ加ヘテ一割五分方ニ増加デアル
ト云フヤウナ御話デアツタノデアリマス、其
ノ一割五分ト云フヤツヲ發生スル臨時利得
稅ト云フモノハ、個人ノ方ニモ同ジク掛シテ居
ルモノデアリマス、是ハ先ヅ取去ッテ考フベ
キモノデアル、サウスルト個人營業ノ負擔
ト、ソレカラ法人ノ負擔ト云フモノトニ於テ、
ドウモ自分トシテハ、法人ノ負擔ガ輕
過ギルト云フ工合ニ考ヘラレル譯ナシデア
リマス、ソレカラ法人大きな點ニ於テ、
例ヘバ今度ノ衆議院ノ方ノ改正ニナリマシ
タ損失金ヲ三箇年分見テヤルト云フヤウナ
コトハ、個人ニ付テハ全クサウ云フコトハ
考ヘテ居ラナクナシテ居ル、要スルニ自分ノ
今見ル所デハ、會社ト云フモノヲ一ツノ營
利團體ト云フヤウナ工合ニ見テ居ラレル、
是迄ノ「ヨーマ」法ノ系統ヲ引イタ商法ノ見
地カラ見テ居ラレルト云フ結果、ゾヨニ個
人ノ集リガ出テ居ルンダト云フヤウニ考ヘ
テ會社ヲ考ヘル時ハ、株主トカ何トカ云フヤ
ウナモノヲ考ヘテ居ルコトガ主ナル原因ニ
ナシテ、サウ云フ不公平ナコトヲ發生スルヤ
ウニナシタノデハナイカ、ソコデ一番前ノ問
題ニ還ツテ、法人稅トソレカラ所得稅ト云フ
モノトノ關係、若シクハソレノ特質ヲドウ

云フ工合ニ考ヘテ居ラレルカ、ソレヲ承リ
タイ署ナノデアリマス

云フコトニ付キマシテ御議論ガアツタヤウ
デアリマスガ、比ノ聞頭ニ寸キマソテハ、

ニ對シマシテハ法人稅ト云フ名稱ノ下ニ課
稅ノヨウ、云フアモ、蓋ノ實内ノ用意ゲ

口從來ヨリモ一步進メテ、法人ハ獨立ノ企

○國務大臣(櫻内幸雄君) 法人税ト所得税

私、税ノ方ノ法理論ニ付テハ餘リ知識ガア

積ミミウリ云フハキ
蓋シ本質的ノ相違ナ
アルモノデアリマスカラ、之ヲ兩者切離シ

業形態テアル個人ト離レタ有在テ持シテ居ル、從ツテ課稅上モ全ク獨立ノ營業主體

ガ、主要ナル御質問ノ要點デアツタ思ヒ
ヲドウ云フ風ニ考ヘテ居ルカト云フコト
マス、所得税ト補完税タル収益税トノ關係
ハ、大體個人ニ付テノ問題デアリマシテ、
法人税ニ付テハ、別箇ノモノトシテ考へマ
シテ、法人税ト云フモノヲ起シタ譯デアリ
マス、申ス迄モナク此ノ法人税ハ、或利益
ノ目的ヲ以テ出來上リマシタツノ主體デ
アルノデアリマシテ、其ノ法人ニ對シテ課
稅ヲ致スト云フ事柄ハ、從來カラモ御承知
ノ通り行シテ來テ居ルノデアリマス、ソレデ
其ノ法人ニ對シテ今回ノ稅ノ掛け方ハ、今
迄トハ根本的ニ變ヘマシテ、今御話ノアリ
マシタ法人稅ノ點カラ考ヘテ見マスト、丁
度現行法デ申シマスト云フト百分ノ十七・四
五ト云フノヲ、唯十八ニ致シタダケデアリ
マスケレドモ、ソレハ拂込ノ關係ガアリマ
シテ、稅金ヲ經費ト見タノト、經費ト見ズ
シテ利益金ノ中カラ、稅金ヲ差引カナイモ
ノニ掛ケルト云フ建前デ課稅ヲスル今回ノ
稅制ノ建前カラ申シマスト云フト、ソコニ
少カラザル増額ニナツテ居ルノデアリマシ
テ、資本ニ對スル所ノ一・二五ヲ・五ニ直シ
タト云フコトト、兩々相俟ッテ約一割五分
カラニ割ノ増稅ニナツテ居ルノデアリマス
ガ、其ノ點ハ兎ニ角、法人ニ對シマシテモ、
矢張リ營利ヲ目的ト致シマスル以上ハ、ソ
レニ對シテ相當ナル增稅ヲ致スト云フコト
ガ適當デアルト考ヘマシテ、增稅ヲ致シタ
ガ適當デアルト考ヘマシテ、增稅ヲ致シタ

○政府委員(大矢半次郎君) 従來我ガ國ニ於キマシテハ、所得稅ハ法人ニ對シテモ個人ニ對シテモ之ヲ適用シテ居タノデアリマスルガ、併シナガラ課稅標準ノ立て方トカレモ所得稅ノ系統ニ於テ、法人ト個人ト同様ニ扱ヒ得ナイノハ、本質的ニ相違ガアルカラ、斯ウ云フコトニナツテ居ルト思フノデアリマシテ、元來所得稅ノ額ダケハ、所得テ致シマスレバ、個人ニ對シテノミ言ヒ得ノ高ニ應ジテ超過累進稅デ課稅スルノガ本質的ノモノカト存ジマス、斯ウ云フ見地カラ致シマスレバ、個人ニ對シテノミ言ヒ得ルコトデアリマシテ、法人ニ對スル課稅ハノ事例ヲ見マシテモ、或ハ所得稅ハ法人ト個人ト共通ニ致シテ居ル所モアルノデアリマス、又立法的ニ別ニ致シテ居ル所モアリマスガ、其ノ何レニ於キマシテモ、大體法人ニ付テハ超過累進稅率ノ適用ヲシテ居ナイ、個人ニ於テノミ之ヲ適用シテ居ル、斯ウ云フ状況デアルノデアリマシテ、從ッテ名前ハ何トアラウガ、兎ニ角法人ト個人トニシテ個人ニ對シテノミ之ヲ適用スル、法人

テ置イタ方ガ寧ロ適當デハナカラウカ、斯
致シマシテ、法人ハ獨立ノ企業形態ヲ取ツテ
居ルカラシテ、之ヲ獨立ニ見ナケレバ、ナラ
スノニ、今回ノ改正案ニ於テハ、寧ロ其ノ
法人ノ獨立税ト云フモノノ見方ガ稀薄ニナツ
テ居ルノデハナカラウカト、斯ウ云フ御尋
デゴザイマシタガ、私共ハ是ハ全然反對ニ
考ヘテ居ルノデアリマス、此ノ我が國ニ於
キマシテモ、所得稅法カラ見マスルト云フ
ト、當初ハ課稅上モ法人ノ獨立税ト云フモ
ノヲ見テ居ナイヤウデアリマスガ、是ハ大
正九年ノ所謂配當所得ノ課稅以後ハ、大體
法人モ多少ノ獨立性ハアルト云フ風ニ見ラ
レテ來タノデアリマス、然ルニ今回ノ、
併シ其ノ後ニ於キマシテモ、明瞭ニ
法人ハ獨立シタ企業形態デアル、從ツテ
法人ヨリ個人ガ受クル配當ハ所得、別
箇ノ人格ノモノカラ出テ居ルモノデアルカ
ドウカト云フ點ニ付キマシテハ、多少稅法
上モ疑ガアツタノデアリマス、ソレハ社債ト
カ銀行預金等ニ對シマシテハ、資本利子稅
ヲ課稅シテ居リマシタケレドモ、配當所得
ニ對シテハ資本利子稅ヲ課稅シテ居ナイト
云フヤウナ點ヲ見マシテモ、多少此ノ獨立
性ト云モノヲ十分ニハ見テ居ナカツタノ
デハナカラウカト云フ風ニモ見ラレルノデ
アリマスガ、此ノ度ハ此ノ預金利子、ソレ
カラ社債ト同ジク、配當ニ付キマシテモ、
配當利子所得ト云フ同ジ名稱ノ下ニ致シマ
シテ、サウシテ課率モ同様ニスルト、斯ウ
云フコトニ致シテ居リマスルカラシテ、寧

トシテ見テ行クノダト云フ色彩ガ濃厚ニナツ
テ來タト斯ウ見テ居リマス、ソレカラ個人
ノ營業ト法人ノ營業ノ負擔ノ輕重ノ問題デ
アリマスルガ、是ハ多少課稅標準ノ計算方
法ニ於テモ達ヒマスカラ、一概ニハ論ジラ
レマセヌケレドモ、大體今回ノ改正ニ於キ
マシテハ、中央地方ヲ通ズル稅ノ負擔カラ
言ヒマスルト云フト、個人ノ方ハ總體ニ於
テ現行法ノ負擔ニ比シテ一割程度増稅ニ、
ナツテ居ルコトト思ヒマスガ、法人ハ大體一
割五分程度ノ増稅ニナツテ居ル、法人ノ負擔
ノ増加ノ程度ガ個人ヨリモ寧ロ重クナツテ
居ルト、斯ウ云フ譯デアルノデアリマス、
唯此ノ法人ノ稅ノ負擔ヲドノ程度ニシタラ
宜イカト云フコトハ、是ハ一概ニハ言ハレ
ナイト思フノデアリマシテ、ソレカラ個人
ノ場合ト違ツテ、超加累進稅率ニ依ツテ課稅
スルモノデアリマセヌカラシテ、個人ノ負
擔ト法人ノ負擔ト見較ベテ、ソレヲ高イカ
低イカ論ズル譯ニ行カナイ、要スルニ其ノ
國ノ經濟界ノ狀況カラ見テ、租稅ノ負擔ノ
程度ガ、此ノ程度デ尙企業ガ十分ヤツテ行ケ
ルカドウカト云フノガ、此ノ法人負擔ノ程
度ヲ決メル標準ニナルダラウト思フノデア
リマス、デ大體數次ノ增稅ニ依ツテ、法人ノ
負擔ヲ重カラシメテモ差支ナイデハナカラウ
カト、斯ウ存ジマシテ今回ノ案ヲ作成シタ
次第デゴザイマス

問ハ、尙後テ通告順ニ依リマシテ再び御願ヲスルコトニ致シマス、外務大臣ガ御見エニナリマシタ、コ、デ大河内子爵ニ御許シ致シマス

○子爵大河内輝耕君、甚ダ恐縮デゴザイマスガ、外務大臣ノ御都合モゴザイマスノデ、甚ダ皆サン御待チヲ願シテ恐縮ニ存ジマス、速記ヲ止メテ戴キマス

○委員長(伯爵林博太郎君) 速記ヲ止メマス

〔速記中止〕

○委員長(伯爵林博太郎君) 速記ヲ始メ

○橋本辰二郎君 私ハ此ノ度政府ノ計劃的ノ大稅制改革案ヲ御提出ニナリマシタ時期ノ當否如何ト云フコトニ付テ御尋ネ致シタ

イト思ヒマス、大藏大臣ニ於キマシテハ、此ノ大稅制改革案ヲ斷行スルノニハ、今ガ絶好ノ機會ナリト御認ニナッテ居ラレマスカ、私共ハ、故人トナラレマシタサウシテ數回大藏大臣ノ衝ニ當ッテ、日本ノ財政ノ整理ヲサレマシタ、元ノ高橋大藏大臣ハ、私ハ、日本ガ生ンダ偉大ナル財政家ト致シマシテ今日尙追慕ノ念ノ禁ゼザルモノガアルノデアリマス、此ノ高橋氏ノ大藏大臣タリシ時代ニ、屢々稅制改革ニ付テノ議論ガアツタノデアリマス、其ノ際ニ高橋大藏大臣曰ク、稅制ノ改革ノ如キモノハ、經濟界ガ安定シテ其ノ平靜ニ歸シタ場合ニ於テノミ之ヲ爲シ得ルモノデアル、今ヤ世界ノ經濟界ハ非常ニ動搖シテ殆ド變轉極リナキ有様デアル、所謂猶ノ目玉ノヤウニ時々刻々狀況が變ツテ行ク、此ノ亘ニシテタヲ測ルコトノ出來ナイ折柄稅制改革ヲナスガ如キハ、是ハ意味ヲ成サナイ、斯ウ

云フヤウナ御意見デアリマシタ、此ノ點ハ私等英國ノ稅制ヲ以テ可ナリトスル者ニ付キマシテハ、ドウモ一ツノ見方デアラウト考ヘタノデアリマス、然ルニ今日ノ經濟界ノ情勢ヲ見マスルト、此ノ五六年前ノ當時ヨリモ専非常ナル混亂ノ時代ニ入ッテ居リマス、内國的ニ見マシテモ、軍需工業其ノ他時局產業ニ依リマシテ、非常ナル利益ヲ收メテ居ル者ガアリマス、所謂統制成金又ハ賡成金、軍需成金トカ云フモノガ、ソコラニ續々トシテ出テ居リマスルガ、其ノ一方ニ、又統制ノ爲其ノ他ノ原因ニ依リマシテ非常ナル窮境ニ陥ッタ者モアリマス、殊ニ大消費タル戰爭ヲ控ヘテ居リマシテ非常ナル時期ニ際シテ居リマス、又世界的ニ見マシテモ、「ヨーロッパ」ニ第二次ノ大戰爭ガ起リマシテ、之ニ依リマシテ世界ノ政治的、經濟的情勢ハ非常ナ激動ヲ受ケマシテ、如何ニ是ガ變動スルカト云フコトハ容易ニ逆睹ヲ許サナイト云フヤウナ今日ノ有様デアリマス、此ノ際ニ於テ、斯ウ云フ計劃的ノ稅制改革案ヲ御提出ニナリマシタノハ、ドウ云フ理由ニ依ルノデアリマスカ、御所信ノアル所ヲ承リタイト思ヒマス

○國務大臣(櫻内幸雄君) 増稅ノ時期ニ付キマシテノ御尋デアリマスガ、御承知ノ如ク此ノ中央、地方ヲ通ジテノ稅制ノ根本的改革ヲシナケレバナラヌト云フ議論ハ、餘程以前カラ起ツテ居タ議論デアリマシテ、色々複雜ト相成ツテ居リマス所ノ稅制ヲ整理シテ、サウシテ體制ヲ整ヘルト云フ事柄ハ、豫てカラ必要デアルト云フ風ニ總テ認メラレテ居タノデアリマスガ、サウシテ其ノ稅制ノ改革ヲ致スト云フコトニ付キマシテ、今御話ノ如ク、經濟界ノ平靜ノ時ニ於テ致ス

ト云フ事柄ガ最モ適當デアルト云フコトハ、橋本サンノ御意見ノ通リデアリマス、斯様ナ關係上カラ昭和十二年ニ此ノ事變が起リヘタノデアリマス、其ノ爲ニ稅制改革ト云フ事柄ヘタノデアリマス、然ルニ今日尙繼續致シテ居ルヤウマシテ、今日尙繼續致シテ居ルヤウ時局産業ニ依リマシテ、ノミナラズ此ノ事變ノ時局產業ニ依リマシテ、非常ナル利益ヲ收メテ居ル者ガアリマス、所謂統制成金又ハ賡成金、軍需成金トカ云フモノガ、ソコラニ續々トシテ出テ居リマスルガ、其ノ一方ニ、又統制ノ爲其ノ他ノ原因ニ依リマシテ非常ナル窮境ニ陥ッタ者モアリマス、殊ニ大消費タル戰爭ヲ控ヘテ居リマシテ非常ナル時期ニ際シテ居リマス、又世界的ニ見マシテモ、「ヨーロッパ」ニ第二次ノ大戰爭ガ起リマシテ、之ニ依リマシテ世界ノ政治的、經濟的情勢ハ非常ナ激動ヲ受ケマシテ、如何ニ是ガ變動スルカト云フコトハ容易ニ逆睹ヲ許サナイト云フヤウナ今日ノ有様デアリマス、此ノ際ニ於テ、斯ウ云フ計劃的ノ稅制改革案ヲ御提出ニナリマシタノハ、ドウ云フ理由ニ依ルノデアリマスカ、御所信ノアル所ヲ承リタイト思ヒマス

○國務大臣(櫻内幸雄君) 増稅ノ時期ニ付キマシテノ御尋デアリマスガ、御承知ノ如ク此ノ中央、地方ヲ通ジテノ稅制ノ根本的改革ヲシナケレバナラヌト云フ議論ハ、餘程以前カラ起ツテ居タ議論デアリマシテ、色々複雜ト相成ツテ居リマス所ノ稅制ヲ整理シテ、サウシテ體制ヲ整ヘルト云フ事柄ハ、豫てカラ必要デアルト云フ風ニ總テ認メラレテ居タノデアリマスガ、サウシテ其ノ稅制ノ改革ヲ致スト云フコトニ付キマシテ、今御話ノ如ク、經濟界ノ平靜ノ時ニ於テ致ス

ト云フ事柄ガ最モ適當デアルト云フコトハ、橋本サンノ御意見ノ通リデアリマス、斯様ナ關係上カラ昭和十二年ニ此ノ事變が起リヘタノデアリマス、其ノ爲ニ稅制改革ト云フ事柄ヘタノデアリマス、然ルニ今日尙繼續致シテ居ルヤウマシテ、今日尙繼續致シテ居ルヤウ時局産業ニ依リマシテ、ノミナラズ此ノ事變ノ時局産業ニ依リマシテ、非常ナル利益ヲ收メテ居ル者ガアリマス、所謂統制成金又ハ賡成金、軍需成金トカ云フモノガ、ソコラニ續々トシテ出テ居リマスルガ、其ノ一方ニ、又統制ノ爲其ノ他ノ原因ニ依リマシテ非常ナル窮境ニ陥ッタ者モアリマス、殊ニ大消費タル戰爭ヲ控ヘテ居リマシテ非常ナル時期ニ際シテ居リマス、又世界的ニ見マシテモ、「ヨーロッパ」ニ第二次ノ大戰爭ガ起リマシテ、之ニ依リマシテ世界ノ政治的、經濟的情勢ハ非常ナ激動ヲ受ケマシテ、如何ニ是ガ變動スルカト云フコトハ容易ニ逆睹ヲ許サナイト云フヤウナ今日ノ有様デアリマス、此ノ際ニ於テ、斯ウ云フ計劃的ノ稅制改革案ヲ御提出ニナリマシタノハ、ドウ云フ理由ニ依ルノデアリマスカ、御所信ノアル所ヲ承リタイト思ヒマス

○國務大臣(櫻内幸雄君) 増稅ノ時期ニ付キマシテノ御尋デアリマスガ、御承知ノ如ク此ノ中央、地方ヲ通ジテノ稅制ノ根本的改革ヲシナケレバナラヌト云フ議論ハ、餘程以前カラ起ツテ居タ議論デアリマシテ、色々複雜ト相成ツテ居リマス所ノ稅制ヲ整理シテ、サウシテ體制ヲ整ヘルト云フ事柄ハ、豫てカラ必要デアルト云フ風ニ總テ認メラレテ居タノデアリマスガ、サウシテ其ノ稅制ノ改革ヲ致スト云フコトニ付キマシテ、今御話ノ如ク、經濟界ノ平靜ノ時ニ於テ致ス

ト云フ事柄ガ最モ適當デアルト云フコトハ、橋本サンノ御意見ノ通リデアリマス、斯様ナ關係上カラ昭和十二年ニ此ノ事變が起リヘタノデアリマス、其ノ爲ニ稅制改革ト云フ事柄ヘタノデアリマス、然ルニ今日尙繼續致シテ居ルヤウマシテ、今日専繼續致シテ居ルヤウ時局産業ニ依リマシテ、ノミナラズ此ノ事變ノ時局産業ニ依リマシテ、非常ナル利益ヲ收メテ居ル者ガアリマス、所謂統制成金又ハ賡成金、軍需成金トカ云フモノガ、ソコラニ續々トシテ出テ居リマスルガ、其ノ一方ニ、又統制ノ爲其ノ他ノ原因ニ依リマシテ非常ナル窮境ニ陥ッタ者モアリマス、殊ニ大消費タル戰爭ヲ控ヘテ居リマシテ非常ナル時期ニ際シテ居リマス、又世界的ニ見マシテモ、「ヨーロッパ」ニ第二次ノ大戰爭ガ起リマシテ、之ニ依リマシテ世界ノ政治的、經濟的情勢ハ非常ナ激動ヲ受ケマシテ、如何ニ是ガ變動スルカト云フコトハ容易ニ逆睹ヲ許サナイト云フヤウナ今日ノ有様デアリマス、此ノ際ニ於テ、斯ウ云フ計劃的ノ稅制改革案ヲ御提出ニナリマシタノハ、ドウ云フ理由ニ依ルノデアリマスカ、御所信ノアル所ヲ承リタイト思ヒマス

○國務大臣(櫻内幸雄君) 増稅ノ時期ニ付キマシテノ御尋デアリマスガ、御承知ノ如ク此ノ中央、地方ヲ通ジテノ稅制ノ根本的改革ヲシナケレバナラヌト云フ議論ハ、餘程以前カラ起ツテ居タ議論デアリマシテ、色々複雜ト相成ツテ居リマス所ノ稅制ヲ整理シテ、サウシテ體制ヲ整ヘルト云フ事柄ハ、豫てカラ必要デアルト云フ風ニ總テ認メラレテ居タノデアリマスガ、サウシテ其ノ稅制ノ改革ヲ致スト云フコトニ付キマシテ、今御話ノ如ク、經濟界ノ平靜ノ時ニ於テ致ス

ト云フ事柄ガ最モ適當デアルト云フコトハ、橋本サンノ御意見ノ通リデアリマス、斯様ナ關係上カラ昭和十二年ニ此ノ事變が起リヘタノデアリマス、其ノ爲ニ稅制改革ト云フ事柄ヘタノデアリマス、然ルニ今日専繼續致シテ居ルヤウマシテ、今日専繼續致シテ居ルヤウ時局産業ニ依リマシテ、ノミナラズ此ノ事變ノ時局産業ニ依リマシテ、非常ナル利益ヲ收メテ居ル者ガアリマス、所謂統制成金又ハ賡成金、軍需成金トカ云フモノガ、ソコラニ續々トシテ出テ居リマスルガ、其ノ一方ニ、又統制ノ爲其ノ他ノ原因ニ依リマシテ非常ナル窮境ニ陥ッタ者モアリマス、殊ニ大消費タル戰爭ヲ控ヘテ居リマシテ非常ナル時期ニ際シテ居リマス、又世界的ニ見マシテモ、「ヨーロッパ」ニ第二次ノ大戰爭ガ起リマシテ、之ニ依リマシテ世界ノ政治的、經濟的情勢ハ非常ナ激動ヲ受ケマシテ、如何ニ是ガ變動スルカト云フコトハ容易ニ逆睹ヲ許サナイト云フヤウナ今日ノ有様デアリマス、此ノ際ニ於テ、斯ウ云フ計劃的ノ稅制改革案ヲ御提出ニナリマシタノハ、ドウ云フ理由ニ依ルノデアリマスカ、御所信ノアル所ヲ承リタイト思ヒマス

○國務大臣(櫻内幸雄君) 増稅ノ時期ニ付キマシテノ御尋デアリマスガ、御承知ノ如ク此ノ中央、地方ヲ通ジテノ稅制ノ根本的改革ヲシナケレバナラヌト云フ議論ハ、餘程以前カラ起ツテ居タ議論デアリマシテ、色々複雜ト相成ツテ居リマス所ノ稅制ヲ整理シテ、サウシテ體制ヲ整ヘルト云フ事柄ハ、豫てカラ必要デアルト云フ風ニ總テ認メラレテ居タノデアリマスガ、サウシテ其ノ稅制ノ改革ヲ致スト云フコトニ付キマシテ、今御話ノ如ク、經濟界ノ平靜ノ時ニ於テ致ス

ノ税制改革ハ長之間ノ國論デアッタ、民意暢達若シクハ輿論ニ傾聽セラレタト云フヤウナ御言葉モ承リマシタガ、ソレハ大變政治衆議院ニ於テ削除セラレマシタ物品稅ノ如キモノヲ新タニ提案サル、トカ、又ハ多年懸案ニナツテ居リマス相續稅ノ物納ノ如キモノモ御入レニナルダケノ雅量ガアッテ然ルベキト思フノデアリマシテ、ソレ等ノコトモナイノハ、特ニ私ハ遺憾ト思フノデアリマスガ、併シ是ハ私ノ議論ニ當ルヤウナ何ガアリマスノデ、ソレハ別段ニ御答辯ヲ要致シマセヌ、次ニ私ハ恒久稅ト臨時稅トノ二本建ニナツテ居リマス、是ハ臨時稅ハ事變ノ處理ニ要スル費用ヲ主トシタルモノ、デアリマシテ、是ハモウ當然ダト思ヒマスガ、是ハ支那事變ガ一段落スルトカ、若シクハ終了シタ場合ニ於テハ、撤廢スルト云フ御考デアリマセウカ、尤モ法文ニハ支那事變終了ノ翌年十二月三十一日ニ撤廢スルト云フコトニハナツテ居リマスルガ、果シテサウ云フ意思ガアルカドウカト云フコトヲ承リタイ、ナゼ私ガ斯ウ云フコトヲ御尋ネスルカト言ヘバ、先キニ高橋藏相ノ時ニ於キマシテ、臨時利得稅ト云フモノガ提案セラレ、其ノ審議ノ際ニ於キマシテ、臨時ト云フノハドウ云フコトデアルカ、斯ウ云フコトヲ尋ねマシタ處ガ、約三箇年ノ積リデアル、斯ウ云フコトデアリマス、處ガ文字上ヨリ見レバ、臨時ト云フモノハ殆ド其ノ場限リノコトデアッテ、之ヲ三年ト、臨時ヲ三年ト

云フ解釋ハ、茲ニ開闢以來初メテ出タヤウ
ナ譯デアリマス、ソレモマア宜イト致シマシ
テ、處ガ三年ヲ過ギ、四年ヲ過ギマシテモ、
今日尙且繼續セラレテ居ルノデアリマス、
此ノ單ニ一時的ノモノデスラモ、斯ウ云フ
ヤウニ事實上殆ド恆久化シテ居リマスノ
デ、此ノ支那事變ノ臨時稅ニ於キマシテモ、
亦此ノ臨時利得稅ト同ジヤウナ傾向ヲ辿リ
マシテ、恆久化シハシナイカト云フコトヲ
考ヘラレマス、又一方國際情勢ノ日本ニ對
スル惡化、殆ド孤立無援ノヤウナ今日ノ狀
態カラ見マスルナラバ、國防費ト云フモノ
ハ、到底之ヲ減少スルコトハ或ハ不可能デ
ハナカラウカト思ヒマス、從テ斯ウ云フ
多額ノ增收ヲ含ンデ居ル所ノ此ノ稅制ト云
フモノハ、必ズヤ臨時的デナクシテ、恆久
化スル時期ガアラウト私ハ思フノデアリマ
ス、若シサウデアルトスレバ、寧ロ臨時利
得稅ナンゾト云フヤウナ名義ヲ廢シマシテ、
之ヲ一律ニ超過所得ニ統合セラレタ方ガ、
豫テ租稅ノ簡易化ヲ圖ツタト云フ御聲明ガ
アリマスガ、其ノ目的ニ私ハ合致スルノデ
ハナカラウカト思ヒマスガ、其ノ點、如何
デスカ

ヒマシテ此ノ以前ノ戰爭當時ノ如ク、例ヘ
バ鐵ガ二十五圓ノモノガ二百圓ニナルト
カ、或ハ何十倍ニナルト云フヤウナ狀態ハ
今回ハ見テ居リマセヌノデ其ノ點ニ付キマ
シテハ、勿論或ル程度ノ反動ノアルト云フ
コトヲ覺悟シナケレバナリマセヌガ、ソレ
ニ付キマシテハ、十分ソレニ對スル取締指
導ヲ致シマシテ、左様ナルコトノ影響ノ少
イコトヲ期サナケレバナリスト考ヘテ居リ
マス、ソレカラ此ノ増稅ガ戰費支辨デアル
ナラバソレデ宜シイガ、然ラザレバ其ノ時
期ヲ誤ツテ居ルノデハナイカト云フ御話デ
アリマスガ、併シナガラ只今モ申シマス通
リニ、既ニ長期ニ亘テ今日ノヤウナ狀態ガ
持續致スト考ヘテ見マスト、之ヲ放任シテ
置イテ、サウシテ平靜ニ歸スル場合ヲ待ツ
ト云フコトハ、是ハ財政上モ容易ニ許サナ
イ所デアリマスノデ、已ムヲ得ズ、此ノ機
會ニ於テ之ヲ斷行スルコトガ適當デアルト
斯様ナ見地カラ致シタ譯デアリマス、ソレ
カラ稅制改革ニ付キマシテモ、輿論ヲ尊重
シナケレバナリスト云フコトハ申上ゲル迄
モナイコトデアリマシテ、昨年衆議院ガ物
品稅ニ付テ削除致シタノヲ、本年出シタノ
ハ間違ツテ居ハシナイカ、或ハ相續稅ノ物納
ニ付テ具體化シナイノハ、甚ダ當ラ得ナイ
デハナイカト云フ御尋デアリマスガ、昨年
ノ衆議院ニ於キマスル所ノ所謂削除ノ理由
ト云フモノハ、例ヘテ申セバ國民生活ノ必
需品タル茶ヲ、一貫目三圓程度ノモノニ課
稅スルト云フコトニナツテ居リマシタノニ
對シテ、之ヲ削除致シタノデアリマスガ、
本年提案致シマシタノハ、一貫目十圓ト云
フ即チ高級品ニ課スルト云フ意味デアリマ
シテ、迄今ノ如キ三圓ト云ツタヤウナ、一般

大衆ニ對スル生活ヲ脅威スル意味合ハナク
テ、ソコニ少シク思想上、實際上ヲ考ヘテ
提案ヲ致シテ居ルヤウナ譯デゴザイマス、
相續税ノ問題ニ付キマシテハ、色々物納ニ關
スル研究モサレタノデアリマスガ、未ダ之ヲ實
行ニ移スト云フコトニ付キマシテ、研究ノ十分
具體化スルニ至ラナカツタノデアリマシテ、
昨日モ申シマスル通り、此ノ問題ニ對シマ
シテハ更ニ研究ヲ繼續致シマシテ、實際ニ
於テ實行ノ出來ル場合ニ於テ致シタイト斯
様ニ考ヘテ居リマス、ソレカラ恒久税ト臨
時税トノ問題ニ對シテ御尋デアリマスガ、
今回臨時税ト致シマシテ取扱ツテ居リマス
ルノハ、御承知ノ通リ臨時利得税ノ問題デ
アリマスガ、是ハ支那事變ノ終了致シマシ
タ場合ニ於テハ、之ヲ削除スルト云フ方針
デ參ッタノデアリマスガ、當初ハ之ガ政府ノ
提案ハ、當分ノ内トアリマシテ、議會ニ於
テ、三箇年ト限定セラレテ參ッタノデアリマ
スガ、更ニ延長シテ來タノデアリマシテ、
今回ハ超過所得ト綜合シテ課税スヤウニナッ
テ居リマス、此ノ臨時利得税ノ問題ニ付キ
マシテハ、即チ事變ト睨ミ合セテ考ヘテ見
マシテ、サウシテ適當ナル時機ニ於テ之ヲ
還元致シタイト云フ考ハ持ツテ居ルノデアリ
マス、今御話ノ如ク、是ハ常ニ恆久的ニナ
リ易イモノデアルカラ、寧ロ超過利得ト一
緒ニシテ恆久的財源ニシタラドウカト云フ
御話デアリマスガ、ソレ等ノ點ニ考慮致サ
レタノデアリマスケレドモ、是ハ自ラ性質
ガ異シテ居ルノデアリマスカラ、只今ハ之ヲ
以テ整理致シテ置キマシテモ、實際ニ於テ
ハ、事變ノ終了ニ依ツテ臨時利得税ヲ廢止ス

ルヤウナ時代ガ來ルノデハナイカ、斯様ニ
考ヘテ居ルノデアリマス、特別法人税モ亦
當分ノ内ト云フ意味ニ於テ提案致シテ居リ
マスルノデ、衆議院ハ之ニ對シ定期限ヲ附
スルヤウナ修正ヲ致シテ居リマス、政府提
案ノ理由ハ、矢張リ當分ノ内ト云フコトデ
提案致シテ居リマスヤウナ次第デアリマシ
テ、之ヲ適當ナ機會ニ於テ廢止スルト云フ
事柄ハ、稅ノ性質カラ致スペキ筋合デアル
トス様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、要スル
ニ從來ノ例ガ、臨時ニ取タモノガ往々恆久
化シテ居ルト云フ事實ハ、之ヲ認ヌマスケ
レドモ相成ルベクハ、臨時ニ致シタ事柄ハ、
其ノ事態ガ終了致シマシタ時ニ於テ、之ヲ
廢止スルヤウナ方針デ行キタイト斯様ニ考
ヘテ居ルノデアリマス

實情カラ申シマスト云フト、東亞ノ新秩序再建設ト同時ニ、此ノ支那事變ニ對スル所ノ費用ガ要ツテ居ルノデアリマシテ、兩方ノ費用ヲ支辨シテ居リマス際デアルガ故ニ、斯様ナ大キナ國費ヲ使ツテ居ルノデアリマスルガ、幸ニシテ支那事變ガ終了致シマスレバ、其ノ事變ノ關係スル部分ニ於テハ非常ニ費用ハ減少致スト考ヘテ居リマス、唯國際情勢ノ推移ニ依リマシテ、或ハ更ニ一層國防ノ充實ヲシナケレバナラヌヤウナ問題ガ起ルカモ知レマセヌガ、ソレハ矢張リ別箇ノ問題トシテ考慮スベキ事柄ト思ツテ居リマス、デ臨時利得稅ヲ、國費ガ減ツテ來タ場合ニ之ヲ取ツテシマフト云フ事柄ハ、是ハサウ云フ性質ヲ持ツテ居ルノデアリマスケレドモ、一面カラ申セバ、事變前ニ比シテ非常ニ増大シタル收益ニ課稅スル所ノ趣旨モ含ンデ居ルノデアリマスカラ、其ノ場合ニ於キマシテ新タナル建前カラ新規ナ稅ガ創定サレルヤウナコトガアルカモ知レマセヌガ、唯今ノ建前トシマシテハ、事變ガ終了シテ、サウシテ事變ノ費用ガ大イニ減ルト云フヤウナ場合ハ、臨時的ノモノハ元ニ還元スペキ筋合デアルノデアリマシテ、左様ナ方針デ行キタイト斯様ニ考ヘテ居ル譯デアリマス

リマス、只今ノ所デハ、從來ノ減債基金制
度ガ存續サレテ居ルダケデアリマスガ、此
ノ點ニ付キマシテハ、國債ガ増加スルニ從
ヒマシテ、此ノ問題ニ對スル所ノ處理ニ付
テ最モ適切ナ方法ヲ考ヘナケレバナラヌト
思ヒマシテ、左様ナ方針ガ確立致シマシタ
際ニ於テ、只今御話ニナルヤウナ臨時利得
税ハ公債ヲ償還スル所ノ費用ニ充テルヤウ
ナ税トシテ取上げラレルヤウナコトガナイ
トハ、私申シマセヌケレドモ、マダ其ノ
點ニ付キマシテハ、從來ノ方針ニ依ツテ公債
ヲ募集シテ居リマスノデ、只今ノ所此ノ税
ヲソレニ振り當テルト云フ風ニ方針ヲ決定
シタ譯デハナクシテ、此ノ問題ニ付キマシ
テハ、改メテ御審議ヲ願フ機會ガアルダラ
ウト思ツテ居リマス

ト思ヒマスガ、併シ今日此ノ金利ヲ動カスト云フコトベ容易ナコトデナイノデアリマシテ、既ニ總テノ大部分ノ公債ガ、此ノ金利ニ依ツテ募集セラレ、又郵便貯金ニシロ、其ノ他ノモノガ總テ之ニ依ツテ、現在ノ金利ヲ基準トシテ計畫セラレ、サウシテ事業上ニ於キマシテモ、亦此ノ金利ヲ標準トシテ企業ガ試ミラレテ居ルノデアリマシテ、此ノ際此ノ金利ヲ引上ガルト云フガ如キ事柄ハ、總テノ方面ニ非常ニ重大ナ關係ヲ及ス譯デアリマスカラ、斯様ナ事柄ニ付キマシテハ、餘程注意ヲ致サナケレバナラヌノデリマスガ、只今ノ所ニ於キマシテハ、現在ノ金利ガ、政府トシマシテハ先づ適當ナモノナリト斯様ナ見地ニ立チマシテ、總テノ事柄ヲ實行致シツ、アルノデアリマステ、今ノ所之ヲ動カスト云フ風ナ考ハ持ツテ居ラナイノデアリマス

ノ事實ハ今日ゴザイマセヌ、勿論或程度金利ヲ高騰セシムルト云フガ如キ事柄ハ、有ラユル國策ニ非常ニ障碍ヲ起シマスノデ、金利ノ上ラナイコトヲ、現在ノ金利ガ茲ニ此ノ懸動搖致サナイコトヲ、政府ト致シマシテハ希望致シテ居リマスケレドモ、政府ガ殊更ニ此ノ金利ニ對シマシテ、何等カノ手段ヲ講ズルガ如キ考ハ、只今ノ所執ル考モ持ッテ居リマセヌシ、又ソレヲ執ラナケレバ、現現在ノ金利ガ動搖ヲ致スト云フ風ニモ考ヘテ居ラナイ次第アリマス

○橋本辰二郎君 私ノ觀ル所デハ、今ノ御答辯トハ少シ實際ニ違ツタ點ガアルカノヤウニ思ヒマスガソレハ姑ク措キマスガ、

今日ノ金利ヲ以テ適正ト御認ニナリマスレバ、現在殘存シテ居ル所ノ公債ノ中ニハ、

五分利其ノ他隨分高イ金利ノモノガアリマスガ、之ヲ何故借換若シクハ御整理ヲ爲サラナイノデアリマスカ

○國務大臣(櫻内幸雄君) 御承知ノ通り、

公債ハ只今非常ニ巨額ノ公債ヲ年々發行致シテ居リマス、或ハ四十億トカ五十億ト云

フ公債ヲ發行致シテ居リマス、今日ノ高利ノモノヲ低利ニ借換ヘルト云フ事柄ハ、考

ヘナケレバナリマセヌガ、申ス迄モナク、

公債ノ消化力ト云フモノハ凡ソ限度ガアル

上ニ、非常ニ消化ガ圓滑ニ行カヌト云フ事柄ヲ起ス點ガアルノデアリマス、之ヲ高利ノ國債ヲ低利ニ借換ヘルト云フ事柄ハ、適當ナ時機ニ於テ爲サナケレバナラヌ事柄ト考ヘマスケレドモ、是モ直チニ之ヲ實行致

スト云フ事柄ハ、是ハ矢張リ緩急ヲ見テヤラナケレバナラヌコトデアリマシテ、今直

テハ希望致シテ居リマスケレドモ、政府ガ

殊更ニ此ノ金利ニ對シマシテ、何等カノ手

段ヲ講ズルガ如キ考ハ、只今ノ所執ル考モ

持ッテ居リマセヌケレドモ、適當ナ時機ガ參

リマスレバ、斯ウ云フ問題ニ付テモ考慮ヲ

拂ハナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデアリ

マス

○橋本辰二郎君 只今ノ御考ダケハ承ッテ置キマスガ、若シ今日ノ金利ヲ以テ之ヲ適

正ナリトスレバ、適正ナル金利デアレバ、

如何ナルコトデモ之ヲ實行スルノニ躊躇ス

ル必要ハナイト思ヒマス、デ高イ金利ノ公

債モ御整理爲サルノガ相當デアラウト思ヒ

マスレドモ、是ハ私ノ意見デアリマスカラ別

段ニ御答辯ニ及ビマセヌ、次ニ近來「インフ

レ」ガ襲來シツ、アルト云フ議論ハ、是ハ近

来デアリマセヌ、昨年カラ議會ノ問題ニナッ

テ居リマスガ、近來ハ政府ニ於テ如何ニ御

辯解ニナリマセウガ、事實インフレト云フ

モノハ相當浸潤シテ居ルノデアリマス、是

ハ主トシテドウ云フ所ニ起因スルカト云ヘ

バ、寧ロ下層階級、ト言ヒマスト少シク失

禮ニ當リマスガ、詰リ勞務方面ノ人ノ收入

ノ非常ニ多イ結果ガ其ノ主タル原因デアル

ト私ハ認メルノデアリマス、デ之ニ付キマ

シテ、此ノ「インフレ」ヲ防止スル一番最上

ノ、又最捷徑ノ方策ト致シマシテ、物ト物トノ需給

相場以外ノ取引ガ行レテ居ツテ、其ノ結果、

取引ガ現金取引ノヤウナ結果ニナツテ居ル

ト云フ事柄モ原因致シテ居リマス、又消費

マシテ、通貨ガ自然ニ増大致スト云フ事柄

ハ已ムラ得ナイト致シマシテモ、其ノ率ガ

非常ニ多イト云フ事柄ニ付キマシテ、私共ハ

最大ノ注意ヲ拂ツテ居ル譯デアリマス、其ノ

中デ唯今御話ニナリマシタ労務者階級、特

ニソレガ「インフレ」ノ原因ヲ成シテ居ル、

云フ事柄ニ付キマシテモ、是モ半強制的ニ或部分ニ

利用シマシテ、貯蓄セシメルト云フヤウナ

方法ニ依ツテサウ云フ方面ノ資金ヲ集メタ

イト思フノデアリマス、場合ニ依ツテハ強制

動ノ力ニ俟チ、一面ニ於テハ種々ノ機構ヲ

ノ運動ニ俟チ、一面ニ於テハ民間ノ公私團

體ノ活動ニ俟チ、一面ニ於テハ貯蓄獎勵運

動シテ居ルヤウナ譯デアリマス、種々雜多

ノ方面カラ、一面ニ於テハ國民精神總動員

ノ吸收致シタイト考ヘマシテ、此ノ提案ヲ

今衆議院ニ於テ御審議ヲ願ツテ居ル報國債券

ノ如キモ、矢張リ斯ウ云フ方面ノ資金ヲ是

ノ對策トシテ講ジタ譯デアリマス、更ニ又

考ヘテ居ルノデアリマス、又今回ノ稅制ニ

致シマシテモ、ソレ等ノ購買力ヲ有スル人

人ガ嗜好力ヲ唆ル所ノ奢侈品、或ヘ急ヲ

要シナイ所ノ品物ニ對シテ、稅ヲ多く上ガタ

ト云フ事柄モ、是等ノ「インフレ」防止ノ一ツ

力ヲ致シツ、アルノデアリマス、「インフ

レ」ノ原因ハ勿論多々アリマス、或ハ國家

持ツテ居リマセヌケレドモ、適當ナ時機ガ參

リマスレバ、斯ウ云フ問題ニ付テモ考慮ヲ

拂ハナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデアリ

マス

○國務大臣(櫻内幸雄君) 「インフレ」ヲ

防止スルト云フ事柄ニ付キマシテ、盛

ニソレガ「インフレ」ノ原因ヲ成シテ居ル、

云フ事柄ニ付キマシテモ、是ガサウ云フ方面ノ購

物價騰貴ノ原因ヲ成シテ居ル、是ハ事實デ

アリマス、此ノ點ニ付キマシテモ、是ハ特

殊ナ方法ヲ講ジナケレバナリマセヌノデ、

政府ト致シマシテハ、曩ニ臨時租稅措置法

ニ依リマシテ各工場地帶ノ勞務者諸君ニ渡

スベキ所ノ賞與デアルトカ、給料ノ一部ノ

モノニ對シテ、公債トカ貯蓄債券ヲ渡スト

云フヤウナ方法ヲ講ジテ、其ノ資金ヲ吸收

リマスレバ、斯ウ云フ問題ニ付テモ考慮ヲ

拂ハナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデアリ

マス

○橋本辰二郎君 「インフレ」の原因は種々アリマスガ、ソレハ論ズル必要ハナイノデス、御話ノ通りニ物資ノ不足ト云フコトガ、是ガ主ナル原因デアル、ソレト通貨ノ膨脹ト云フモノモ主タル原因デアリマスガ、私ノ極言シタイ所ハ、詰リ勞務階級ガ非常ナル餘剩購買力ヲ持ツテ居ル、是等ガ其ノ物資慾ヲ恣ニスルガ爲ニ、缺乏セル物資ガ尙一層缺乏シ、茲ニ非常ナル闇取引ト云フコトガ起ツテ來ル、公定價格ノ三倍、四倍スルト云フヤウナ高イ率デ取引サレテ居ルト云フコトハ争フベカラザル事實デアリマス、確カニコ、デ間成金トカ、若シクハ色々々ナモノガ出來マシテ、「インフレ」ト云フコトハ、モウ著シク國內到ル處ニ浸潤ヲシテ居ルノデアリマス、ソレデ若シモ此ノ儘放ツテ置キマシタナラバ、必ズヤ恐ルベキ結果ガ生ズルデアラウトスウ私ハ思フノデアリマシテ、「インフレ」ノ結果ト致シマシテ、著シキ物價ノ騰貴ハ勿論デアリマスガ、有價證券等モ著シク私ハ暴騰シヨウト思ヒマス、此ノ有價證券ノ暴騰ヲ抑制スルノニハ、ドウシテモ是ハ金利ヲ引上げナケレバナラヌトスウ考ヘルノデアリマス、若シ將來「インフレ」ノ傾向ガ甚ダシクテ、有價證券ナルモノガ暴騰シタ場合ニ於キマシテハ、金利ヲ引上げテ其ノ對策ヲ講ズルト云フヤウナ御意嚮ガアリマセウカ

○國務大臣(櫻内幸雄君) 此ノ「インフレ」防止ノ爲ニ、有價證券ガ騰貴スル、斯ウ云事柄ハ、見方ニ依ツテサウ云フ事柄ガ私ハ絶対ニナイトハ申シマセヌガ、今日ノ此ノ有價證券ニ對スル所ノ政府ノ政策ト致シマシテハ、御承知ノ通リ統制經濟ノ結果ト

致シテ、有價證券ニ、從來ノ如ク無制限ニ配當ヲスルト云フガ如キ事柄ハ、之ヲ止メテ居リマス、殊ニ一割以上ノ配當ニ付キマシテハ、特別ノ課稅ヲ致シマシテ、之ガ抑正、サウ云フモノカラ見マシテ、有價證券

ノ方ニ對シマシテモ、相當或種ノ統制ガ届イテ居ルト考ヘテ居ルノデアリマス、金利ヲ上ガテ、サウシテ有價證券ノ價格ヲ下げるト云フコトニ付キマシテハ、マダ左様ナルト云フコトニ付キマシテハ、マダ左様ナル必要ヲ今日迄認メテ居リマセヌノデ、今左様ナ事柄ヲ致スト云フ風ナ考ハ持ツテ居ラヌヤウナ譯デアリマス

○橋本辰二郎君 將來ノコトニ亘リマシテ假定的ナコトデアリマスカラ、御答辯ノナ

イノモ私ハ已ムヲ得マイトスウ思フノデアリマス、併シナガラ今日ノ經濟界ト申シマスルカ、寧ロ小資産ヲ所有シテ居ル所ノ階級、詰リ闇取引又ハ統制經濟等ニ依ツテ、相當ナル小資產ヲ持ツテ居ル者ハ多いノデアリマス、是等ノ者ノ頭ニハ、今日ノ如ク年、

年歲々通貨ガ膨脹シ、公債ガ増發サレルト云フコトニナレバ、公債ノ性質ニ付キマシテハ、私モ昨日申上ガタヤウニ、殆ド對價ヲ拂ハザル資本ノ造成、私ハ斯ウ見テ居ル、サウ云フコトニナレバ、將來物ヲ持ツテ居ラナカッタナラバドウ云フコトニナルカ分ラス、斯ウ云フ考デ、更ニ物ヲ買フニモ、物資ノ不足ノ今日デハ、手ニ入ルモノハナ

イ、物ヲ買ハムト欲スレバ、先づ事業會社ノ株ヲ買ツテ置クノガ一番確實デアル、斯ウ云フ見方ノ下ニ於テ、私ハ、今デハナイガ、

方法ヲ執ルト云フガ如キ意見ヲ、マダ決定後ニ對シマシテハ、左様ナルコトガ起ルヤ

シテ、其ノ點ニ付キマシテハ、今日迄比較的ニ左様ナ傾向ガ少イノデアリマスガ、今

ノ氣分必ズシモナイトハ申シマセヌケレドモ、現在ノ經濟界ノ情勢カラ申シマスルト、想サレルト云フ御話デアリマスガ、サウ云

ノデアリマシテ、此ノ點ニ付キマシテハ十分注意ヲ拂ツテ居ルノデアリマス、サウシテ株券ガ暴騰ヲスルト云フガ如キ事柄ガ豫想シリヨリ物ヘト云フ風ナ聲ヲ往々耳ニ致ス

テ早計ニハ失シナイトスウ思ヒマスガ、サレバナラヌコトデアリマスガ、今ヨリサウ

トガ出来レバ仕合セグト思ヒマス

○國務大臣(櫻内幸雄君) 只今ノ御注意ハ誠ニ難ク承ッタヤウナ次第デアリマス、詰リ金ヨリ物ヘト云フ風ナ聲ヲ往々耳ニ致スノデアリマシテ、此ノ點ニ付キマシテハ十分嚴重ニ注意ヲスルヤウニト、斯ウ云フコトヲ申シ遣ハシタヤウナ譯デアリマス、尙今ノ人々ニ對シテ、金融ニ付キマシテハ十分嚴重ニ注意ヲスルヤウニト、斯ウ云フコトハ、是ハ御尤デアリマス、私其ノ點諒承致シマシタ、ソレカラ私ハ一年ノ矢張リ増稅ノ委員會ニ於キマシテ、勞務者ノ餘剩購買力ヲ吸收スルノニハ、強制貯蓄ヲサセルト云フ方法ヲ執ラナカッタラ效果ハナイト云フコトヲ申シタノデアリマスガ、其ノ當時カラシテ、強制貯蓄ト云フコト迄断行スル勇氣ハナイト云フヤウナ政府ノ御意執リタイト思ヒマス、唯今日只今、サウ云フ場合ニ、ドウ云フ方法ヲ執ル、斯ウ云フシナイ意見ヲ申上ゲマスコトハ、矢張リ經後ニ對シマシテハ、左様ナルコトガ起ルヤウナ形勢ガアリマスナラバ、適當ニ措置ヲ

實ノ起ツテ居ルコトニ對シマシテハ、便宜適當ノ處置ヲ執ツテ居リマス、即チ近頃ハ地方ニ相當金ガ撒布セラレテ參リマシテ、地方ニ撒布サレタ結果トシテ、田舎ニ、ドウカ、ボロ株ヲドン／＼地方デ買込ムト云フスルト云フコトハ争フベカラザルコトデアリマスカ、處ガソレガ永久ニ續ケバ宜イケレドモ、必ズ又其ノ反動ガ來ル、其ノ場合ニ又慘憺タル經濟界ノ攪亂ヲ生ズルト云フコトモ是ハ疑ナイコトデアリマスガ、サウ云フ場合ニ於キマシテ、執ルベキ處置ニ付キマシテハ、財政當局トシテハ十分御考ニナラナケレバナラヌコトデアリマスガ、今ヨリサウ云フ準備ヲナサツテ置クト云フコトモ、決シテ早計ニハ失シナイトスウ思ヒマスガ、サレバナラヌコトニ對スル對策ニ付テ何カ承ルコトガ出来レバ仕合セグト思ヒマス

以テ歡樂場裡ニ出入致シマシテ、結局身體ヲ痛メマシテ翌日ハ缺勤ヲスル、若シクハ勤者ノ一割以上ニ上ルト云フノハ、比々悉ク然リ、ソレヲ見マスルト、何カト言ヘバ、勞務者ノ給料ガ餘り高イ爲ニ、其ノ給料ヲ以テ不衛生ナコトヲシテ、自ラ身體ヲ損ネテ行クト云フヤウナ現狀デアリマス、是ハ何トカシナケレバナラヌ、處ガ理窟ヤ議論ナドデ行クモノデハナイ、アレ等ノ人ノ心理狀態ヲ能ク擋ンデ、最モ適切ナル策ヲ講ジナケレバ到底希望ヲ達成スルコトハ出來ナイト思ヒマス、ソレデドウシテモは強制貯蓄ヲサセマシテ、其ノ生活ノ最小限度ヲ定メテ、ソレ以上ノモノハ公債ナリ、何ナリヲ持タシテ、而シテ其ノ公債ノ又賣却ヲ禁ズル爲ニ之ヲ保管スルト云フ風ナ方法ヲ執ツテ行クト云フコトガ最モ必要デ、而シテ是等ノ者ニ不要ナ金ヲ當テガハスト云フコトハ、不衛生ナ行爲ガ自然減ツテ來テ健康ノ保持モ出來、工場ニ於テ効ク能率モ擧ルト云フコトデ、今、人ノ少イ今日ニ於テハ最モ私ハ必要ナコトト思ヒマスガ、一ツ強制貯蓄デモサセルト云フヤウナ御方針ヲ御執リニナシテハ如何デセウカ

マスノデ、御趣旨ノアル所ハ私共決シテ反
際ニ於テ出來上ツタ上ニ於テ、場合ニ依ツテ
ハ左様ナル事柄ヲ臨時措置法ニ於テ行フヤ
ウナコトガ起ルカモ知レマセヌケレドモ、
マダ只今ノ所ニ於キマシテハソレヲ實行ス
ルト云フ風ナ考ハ持ツテ居リマセヌノデアリ
マス、唯御話ノ如ク之ヲ放任シテ置キマス結
果ト致シマシテ、炭鑛デアルトカ其ノ他ノ如
キモノハ、從來一人ノ工夫ガ一箇月ニ二十三
日カラ二十五日位働くイタモノガ、最近八十
七日トカ十九日位シカ働くナイト云フヤウ
テ狀態デアリマスノデ、其ノ原因ハ今御話ノ
ヤウナ事柄モ多少アリ得ルト思フノデアリ
マシテ、之ヲ實行致サウトスレバドウ云フ風
ナ方法ニ依ツテ實行シテ行クカ、今デモ半バ
強制的ニヤッテ居ル所ガゴザイマス、ゴザイ
マスガ、其ノ結果ト致シマシハテ、却テ此
ノ貯蓄債券トカ、或ハ勸業債券デアルトカ、
國債デアルトカ云フモノヲ、現金代用ニ飲
食ナドニ使フト云フ風モアリマスノデ、之
ヲ實行スル以上ハ、ドウシテモ之ヲ保管
スルト云フ建前迄行カナケレバナラヌ譯デ
アリマシテ、サウ云フヤウナ點ニ付キマシ
テ、マア保管スル場合ニ於テ、ソレガ有力
ナ會社デアリマスレバ差支ナイノデアリマ
スケレドモ、特ニ保管方法ヲ講ジナケレバ、
ソレニ對スル弊害ガ起ラストモ限リマセ
ヌ、旁々種々ナ方法ニ付キマシテ今研究ヲ致
シテ居ルノデアリマシテ、御趣旨ニ副フヤ
ウナ事柄ヲ行ハナケレバナラヌ時代ガ起ル
カ知レマセヌケレドモ、今ソレヲ行フトカ
云フコトニハ決定ハ致シテ居リマセヌ
○委員長(伯爵林博太郎君) 休憩致シマシ

爵八條隆正
ト、初年度
來スト云フ
シテ歳出ニ
ドウ云フ風
自然增收ト
シテ、此ノ
增收差支
期ウ云フヤ
ウニ思フノ
カ、或ハ此
乃ニ赤字公債
デモアルノ
萬圓ト云フ
行ニナリマ
ラ伺ヒタイ
務大臣(櫻宮
デアリマシ
貴族院ニ

四分休憩
三十七分開會
（林博太郎君）是ヨリ午後ノシマス、橋本君
（私ハ委員長ニ御願ヒ致シ止メテ戴キタイト思ヒマス
（林博太郎君）速記ヲ止メマ
君 大臣ニ伺ヒタイノデス
改革案ハ衆議院デ相當ノ修シテ、頂戴シタ材料ニ依リ
ニ於テ六千二百萬圓ノ歳入コトニナリマスガ、之ニ付
對スル歳入ヲ適合サセル爲ノ方法ヲ御執リニナリマス
シタカデ見マスルト云フト、
云フモノガ近年相當ニアル
六千二百萬圓程度ノモノハ
ナク豫算ノ實行ハ出來ル
ソナ御考ノヤウナ風ニモ承ツ
デスガ、果シテ左様デアリ
ノ歳入不足ヲ來シタニ付テ
等ヲ増加スルト云フヤウナ
スカ、其ノ點ヲ一ツ豫メ御
ト思ヒマス
内幸雄君）誠ニ御尤モナ御
テ、本案ガ衆議院ノ修正ノ
於キマシテ決定致シタト致

シマスレバ、勢ヒ政府ト致シマシテハ、其ノ歳入補填ノ爲ニ更ニ赤字公債ヲ出シテ御協賛ヲ願フト云フコトガ一番筋道ノ立ツタヤリ方デアルト思ヒマス、其ノヤリ方ヲ行フ餘地ガアルカナイカ餘程考ヘナケレバナラヌコトデアリマシテ、是ガドウナリマスカ知レマセヌガ、増税案ガ一番終ヒニナルノデヤナイカト思ヒマス、從ヒマシテ赤字公債ヲ出スト云フコトハ、税制ニ關係ガアリマスカラ、改メテ又衆議院ニ出シテ、衆議院ノ御協賛ヲ經テ、コチラニ持ツテ來ルコトニナルノデアリマスガ、ナカ〳〵ソレニハ時間ヲ要スル譯デアリマシテ、サウ云フ手續ヲ執ルト云フ事柄ハ可ナリ困難デアリマス、アリマスガ、ソレニ付キマシテハ、政府ハ自然增收ニ依ツテ之ヲ支辨スルト云フ風ナ考ヲ持ツテ居ルカト云フ御話デアリマスガ、ソレハサウ云フヤウナ事柄ヲ今日迄一口モ申シタコトハ實ナナイノデアリマシテ、或ハ自然增收ト云フモノガアルカモ知レマセヌケレドモ、今日自然增收ヲ豫期シテ豫算ヲ組ンデハ居リマセヌノデ、左様ナ事柄ハ只今ノ所ハ考ヘテ居リマセヌ、實際ニ於テハ自然增收ガアルカモ知レマセヌケレドモ、今左様ナコトハ考ヘテ居リマセヌ、唯私自身ノ覺悟ヲ申シマスト、此ノ度ノ御決定ヲ願ヒマシタ豫算ノ實行上ニ當リマシテ、最モ慎重ニ注意ヲ致シマシテ、出來ルダケノ節約ヲ致シタイト思ツテ居リマス、又物事ヲ覗ミマシテ、仕事ノ上ニ於テ或ハ繰延实行ニ當リマシテハ有ラユル方面カラ有フユヲスルヤウナ事柄モ起リヤシナイカト云フコトモ考ヘテ居リマス、何レニモセヨ、豫算ノル點ニ付キマシテ、十分ナ注意ヲ拂ツテ參リマシテ、出來得ル限り是ハ節約ヲスベキモノデ

アルト、斯様ニ考ヘテ居リマス、從ヒマシ
テソコニ此ノ程度ノ餘剩力ハ出ルデハナイ
カト考ヘテ居リマスガ、若シ私ノ考ヘテ居
リマス事柄ガ實行出來ナイ、又私ガ豫期シテ
居ルヤウナ成績ヲ舉ゲルコトガ出來ナイ、
斯ウ假定致シマスト、是ハ已ムヲ得ズ赤字
公債ニ俟タナケレバナラヌノデアリマスガ、
併シ其ノ赤字公債ヲ本年度ニ於テ、本議會
ニ於テ直チニ御協贊ヲ願ハズトモ、暮ノ次
ノ議會ニ於キマシテ、劈頭二十五年度ノ追
加豫算トシテ之ヲ計上シテ、サウシテ御協
贊ヲ御願ヒ致シマスレバ、ソレデモ間ニ合
フト思ヒマス、即チ明年ノ三月三十一日迄
ノ經費ノヤリ繰ニ於テ差繰ガ附クト思ヒマ
スノデ、此ノ議會ニ直チニ赤字公債ヲ出シ
テ御協贊ヲ願フト云フ風ニハ只今ノ所ハ考
ヘテ居ラナイノデアリマシテ、只今申ス通
リ豫算ノ實行ニ當ツテノ節約ニ付テ之ヲ考
ヘ、更ニ若シ之ヲ實行致スコトガ出來ナカッ
タ場合ニ於テハ、已ムヲ得ズ次ノ議會ニ於テ
十五年度ノ追加豫算トシテ之ヲ御協贊ヲ仰
ゲト、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ル譯デアリマス
○子爵八條隆正君 サウシマスト政府ノ御
考デハ自然增收ト云フコトデナシニ、寧ロ
豫算ノ實行ニ於テ、歲出ヲ節約、繰延等ニ
依ヅテ、ソコデ歲入不足ヲ實行上差支ナイヤ
ウニヤツテ行ク、斯ウ云フ御考ト思ツテ宜シ
イデスカ

○委員長(伯爵林博太郎君) 速記ヲ始メマス
〔速記中止〕

○子爵八條隆正君 大體速記中止前、竝ニ速記中止中ノ御説明ニ依ツテ了解シ得ラレタノデアリマスガ、如何ニモ歳入ト歳出トノ適合ガ六千何百萬圓ト云フト、可ナリ今日麿大豫算ト雖モ大キイト思フノデアリマス、矢張リ是ハ豫豫算トシテハ歳入歳出ヲ適合サシテ行クノガ原則デハナイカト思フノデス、從來貴族院ノ豫算ノ審議ノヤリ方トシテハ、過去ニ於テハ此ノ點ハ非常ニ嚴重ニ觀テ居ツタヤウナ譯デシテ、從ツテ此ノ豫算ト豫算關係ノ法律案ト云フモノハ常ニ睨ミ合ツテ、サウシニテ議會ノ最後迄待ツテ、モウ法律案ノ方ノ關係ニ於テ豫算ノ修正ノ必要アルカナイカラ見極メタ上デ、其ノ豫算ノ決議ヲシテ居ツタト云フヤウナコトデアルノデアリマスガ、近年ソレデハ審議上頗ブル不便ダト云フノデ、法律案ト豫算案トヲ切離シテ審議スルト云フヤウナ例ニナッテ來テ居ツタ、今年度ノ豫算ノ如キハ其ノ歳入中ニハ稅制ノ根本的改正ガアルノデ、從ツテ此ノ修正等ノ爲ニ歳入ニ變動フ生ズルカモ知レヌト云フノデ、實ハ私個人トシテハガアルコトハ當然デアラウト思ヒマス、從ツテ此ノ修正等ノ爲ニ歳入ニ變動フ生ズルカモ知レヌト云フノデ、實ハ私個人トシテハ今回ノ如キ場合ニ於テハ小サナ法律案等ノ問題ハ、是ハ僅カナ豫算ニ影響ヲ及ス所ガテハ豫算ノ本會議ニ於ケル最後ノ決議ハ暫

ク延期シテ、此ノ税制案ノ運命ヲ見極メタ
上デ、決議スルノガ穩當デナカツタカ知ラ
ヌト、斯ウ云フ考ヲ持ツテ居ツタノデアリマ
スガ、近頃法律案ト豫算案トヲ切離シテ審
議スルト云フ例ニナツテ居ルコトデアリマ
スカラ、強ヒテ貴族院ニ於テモソレヲヤカ
マシク論議スルノモ如何カト思ッテ、私一
人トシテハ差控ヘテ、近頃ニ於ケル例ニ
依ツテ豫算ニ付テ態度ヲ決スル方法ヲ執ツタ
ノデアリマスガ、以前ノ貴族院ニ於テハ此
ノ點ハ可ナリヤカマシイ問題デ、歳入ト歳
出トハキチット適合サシテ行クト云フ方針
デアリマシテ、從ツテ税制改革等ニ於テ
モ、大體ニ於テ増税ヲ認メルナラバ、而シ
テ其ノ増税案テ税收入ヲ認メナガラ税制案
ニ付テ修正ヲ加ヘルトカ、何トカ云フ場
合ニハ、一方ニ於テハ修正ニ依ツテ減少ヲ
來スヤウナ修正ヲスルカモ知レナイ、
併シナガラ他方ニ於テ其ノ辻棲ヲ合ハス爲
ニ他ノ修正ニ於テハ、歳入ノ増加ヲスルヤ
ウナ修正ヲシテ、結局ニ於テ税收入ニ於テ
ハ左程デナイ、マア辻棲ノ合フヤウニ修正
ヲシテ來タヤウナ場合ガ多イノデアリマス、
現ニ大正八九年頃デアリマシタカ、所得稅
ノ綜合課稅ニナツタ時デス、其ノ時ナンカデ
モ矢張リ配當所得ガ衆議院ニ二割控除デア
リマシタガ、ソレヲ貴族院ニ四割控除ニ修
正ヲシタ、其ノ際ニハ各派共同ノ修正案ヲ
作ツタノデアリマスガ、左様ナ四割控除ニシ
タニ依ツテ生ズル歲人減ハ、第一種所得稅デ
アツタカ、何カニ稅率ヲ上げテ、サウシテ全
體ノ稅收入ニ於テハ異動ノナイヤウナコト
ヲスルトカ云フヤウナコトニシテ參ツタヤ
ウナ譯デ、歳入ト歳出トハキチント辻棲ノ
合フヤウナ風ノ修正ヲシテ來タ、ソレガ貴

族院流儀デアッタノデアリマスガ、先程カラ申上ゲル通りニ豫算ト法律案ト切離シタガ爲ニ、サウ云ブコトハ出來ナクナッタ、併シ御説明ノヤウナ風ニ、或ハ實行上ニ於テ節減、繰延ヲシテ參ルトカト云フヤウナ風ノ御説明デアリ、萬已ムヲ得ナイ時ニハ次ノ議會ニ於テ追加豫算ヲ出スト云フ御説明デアリマスガ、如何ニモ豫算ヲ實行上ノ前途ニ對シテ不確實ナ感ジガスルノデアリマス、此ノ點ハ矢張リモウ既ニ衆議院デ修正ヲ加ヘタコトデアリ、貴族院ニ於テモ同様、此ノ衆議院ノ修正ヲ認メテ行クト云フヤウナ風コトニナレバ、主義ニ於テ又意見ガ變ル議デアリマセヌカラ、一日デモ公債案ヲ御出シニナシテモ衆議院ハ通過スルコトグラウト思ヒマスガ、如何ナモノデセウ、斯ウ云フ歲入不足補填ノ方法ヲ御執リニナルヤウナ御考ハ、更ニ御考へ直シニナルト云フヤウナコトハゴザイマセヌデスカ

ト理論ガ立チマセヌノデ、只今ハ、今申上
ゲタヤウナ風ニ考ヘテ居リマスケレドモ、
シサウ云フ風ナ御議論デアリマスレバ、政
府デハ再考スルノモ差支ナイコト思フノ
ハアリマセヌノデ、貴族院ニ於キマシテ、若
は絶対ニ左様ニ決メタト云フ譯ナモノデ
シサウ云フ風ナ御議論デアリマスレバ、政
府デハ再考スルノモ差支ナイコト思フノ
デアリマスガ、事情ハサウ云フ事情デア
リマスカラ御了承ヲ願ヒタイト思ヒマス、
鬼ニ角此ノ案ガ、衆議院ノ修正ガ、本院ニ
於テ決定サレタト云フコトニナリマセヌ
ト、其ノ案ヲ出ス譯ニ參ラヌ譯デアリマス
ルノデ、能ク皆サン方ノ御意見ヲ承リマシ
テ、適當ニ善處致シタイト思ヒマス

設サレタ當時ニ於テハ、當分ノ内ト云フコトニ
ガアッタヤウニ思フノデアリマス、今回ノ改
正案ニ依リマスト、當分ノ字ガ消エテ居ル
ヤウデアリマス、是ハ恆久化ト云フコトニ
今後ハ御ヤリナルノデアリマスカ、斯様ナ
モノデアリマセウカ、私ヲ以テ見マスルト、
此ノ國稅トシテノ稅制ノ上カラ、此ノ遊興
飲食稅デアルトカ、入場稅デアルトカ、物
品稅ハマダシモデアリマスガ、斯ウ云フモ
ノガ、國稅ノ上ニ於テアルト云フコトガ、甚
ダドウモ形ガ良クナイト思フ、成ル程是等
ノ稅ノ收入ハ非常ニ増加シテ居リマスカラ、
相當輕視スルコトハ、收入ノ上カラハ輕視
スルコトハ出來ヌ思ヒマスガ、併シ國ノ
稅トシテノ體裁上、遊興飲食稅中ノ、稅法ヲ
見マスレバ、藝妓ノ花代ト云フ面白クナ
イ文字迄モ出テ居ルト云フヤウナモノガ、
國稅トシテノ體裁上甚ダ面白クナイト思フ、
是等ハ自然今後ニ亘リマシテ適當ナ時期ニ、
是ダケノ今次ノ如キ歲入ヲ要セザル時期ニ
至ツタナラバ、或ハ又他ノ稅ニ於テノ收入ガ
增加スルトカ云フヤウナコトガアリマシタ
ナラバ、國稅トシテハ是ハ矢張リ廢止シタ
方ガ宜クナイカ、遊興飲食稅ノ增加スルコ
トハ歲入トシテ誠ニ結構デアリマスガ、是
ガ增加スルト云フコトハ、國民ガ遊興飲食
スル人間ガ多イト云フヤウナコトヲ現ス
コトニナルノデアッテ、他國カラ見テモ甚ダ
體裁ノ宜イコトデヤナイト思フノデアリ
マス、然ルニ是ガ今回當分ノ内ト云フ……
大體法律ノ當分ト云フコトハ甚ダ長期ニ亘
テ安心ハ出來ナイ譯デアリマス、ガ併シ又當
分ノ内ト云フコトデアレバ、臨時ニ此ノ

際ノ歳入ノ必要上餘儀ナク設ケタ租稅デア
ガナクナツテ恒久的ノ性質ヲ帶ビタコトニナ
レバ、イツはガ國稅ノ上カラナクナルト云フ
コトヲ期待シ得ナイヤウナ感ジガスルノデ
アリマスガ、大臣ハドウ云フ風ニ御考ニ
ナリマセウカ、矢張リ是ハ相當收入ノ上力
ラ云ウテ輕ク見ル譯ニイカヌカラ、イツ迄
モ恒久的ニ置クト云フ御考デアリマセウカ、
出來得タナラバ、成ルベク早ク臨時利得稅
同様ニ適當ナ時期ニ國稅トシテハ影ノナク
ナルヤウニシタイト云フ御考デアリ
マセウカ、一ツ伺シテ見タイト思ヒマス
○國務大臣（櫻内幸雄君）　只今ノ御意見デ
アリマスガ、元當分トシテアリマシタノヲ
此ノ度當分ノ字ヲ取ッタモノガアリマス、ソ
レハ矢張リ當分ト云フ意味ヲ含ンデ居ルカ
ト云フ風ナ御質疑デアルト思ヒマスガ、是
等ハ一應恒久的性質ヲ持タシテ宜イデハナ
イカ、斯ウ云フ意味ニ於キマシテ當分ト云
フ字ヲ取ッタノデアリマシテ、今御話ノ遊興
飲食稅等ニ於キマシテハ御話ノヤウナ事柄
モゴザイマスガ、是ハ要スルニ遊興飲食稅ト
言ヒマスカラ、語弊ガアルカモ知レマセヌ
ガ、先ヅ少シク贅澤ノ部類ニ屬スル飲食ニ
對シテノ稅デアルト、斯ウ云フ意味ニ取シテ
考ヘマスレバソレガ多少永續致シマシテモ、
サウ大シテ非難ヲ被ルヤウナコトハナイデ
ハナイカト云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマ
シテ、是ガ三年ナリ五年ナリ、或ハ事變ガ
濟シテ場合ニ於テ、直チニ之ヲ中止スルト
云フ風ニハ只今ノ所考ヘテ居リマセヌノミ
ナラズ、ナカ／＼此ノ國費ノ要リマス狀態
ガ急ニ減少致シテ、サウシテサウ云フ部面
ニ於テ減稅ヲ致スト云フ時期ニハ容易ニ到

達シナイデハナイカト斯ウ考ヘルノデアリ
マス、何レ特別法人税デアルトカ、臨時利
得税デアルトカ、所謂臨時ニ属スルモノニ
對シマシテハ、是ハ事變ノ終了ト共ニ措置
ヲシナケレバナラナイト思ヒマスガ、若シ
サウデナイ部類ノ税ニ對シテハ當分存續サ
レルコトニナルデハナカラウカトスウ云フ
風ニ考ヘテ居リマス

○子爵八條陸正君 只今ノ點ニ付キマシテ
ハ大臣ト少シク私ハ見方ヲ異ニ致シマスガ、
是ハ考ヘ方ノ相違ニアリマスカラ質疑トシ
テハ是デ終リマス

○男爵岩倉道俱君 私ハ戰死者ノ問題ト云
ヒマスカ、戰死者ニ對スル相續税ノ問題ニ
付テ質疑ヲ致シタイト思ヒマス、今回ノ事
變ニ戰死シマシタ者ノ生命保險料ノ支拂ガ
凡ソ七千萬圓ト云フコトヲ聞イテ居リマス
ガ、是ハマア大藏省ノ所管デハアリマセヌケ
レドモ、商工省ノ所管デスガ、大口ハドノ
位、中口ハドノ位、小口ハドノ位ト云フヤウ
ナコトガ御分ニナツテ居レバ、口頭デ宜イノ
デスキレドモ、伺ツテ見タイト思ヒマス、ト云
ノノハデス、實ハ我々ノ同僚ノ御親戚デ、出
征サレタ御方デ、其ノ方ガ戰死サレテ、遺族
トシテ老母ガ一人居ラレルト云フ方ガアル、
是ハ其ノ遺産相續デ相當ナ重稅ヲ課セラレ
ルコトニナル、ソレデ是ガ若シ假ニ借家タ
ケシカナクツテ生活ヲシテ居ツタ云フヤウ
ナ家ニサウ云フ現象ガ起リマスト、一家ノ
柱石ノ稼ギ人ヲ取ラレタ上ニ、所謂借家ニ
對シテ重稅ヲ課セラレルト云フヤウナ實際
問題モ起ルノデアリマスガ、是ハ所謂士氣
ノ上ニ於テ、出來ルモノナラベ戰死者ニ對
スル厚キ國家ノ手向トシテ相續稅ヲ廢止チ
サルヤウナコトガアレバ、私ハ一番結構チ

ヤナイカト思フノデスガ、一つ御考慮ヲ願ヒタイト思フ、ソレデ若シ御手許ニアリマスレバ、戦死者ノ生命保険ニ關スル内容ガチヨット伺ツテ見タイト思フノデアリマス、是ハ士氣ニ關スルヨコトデ、各論ミタイデスアーナドミ、大臣カラ印文書ノ頂ニタゞ

御尋ノ生命保険ノ支拂ガドウ云フ狀態ニナツ

テ居ルカト云フコトハチヨット手許ニ數字ガ

ゴザイマセヌノデ、是ハ後程取調ベマシテ

御答へ致シタ、イト思ヒマス、ソレカラ戰死

者ノ遺族ニ對スル所ノ相續稅ノ問題ニ付キ

マシテハ、是ハ家督相續モ遺産相續モ全部
脱手、及ハ本主ニシテ、其ノ子孫ハ

税金元取て又エトニナシテ居ルト思ビマア星、作戦説明讀ト教シマツニ「軍人、軍属ノ

是ノ非議和本綱ノ致シニシテ軍ノ宣屬ノ
戦死及ハ戦爭ノ爲受ケタル傷痍疾病ニ起因

シタル死亡ニ因リ相續開始シタルトキハ相

續稅ヲ課セス但シ傷痕者又ハ疾病者ニシテ

負傷又ハ發病後一年ヲ經過シ死亡シタルト

キハ此ノ限ニ在ラス』トナツテ居リマス、一

箇年後ニナツテ死ンダ者ニ對シマシテハ是

が適用出来マセヌケレドモ、若シサウニアア

リマセ又ケレハ此ノ法文ハ存續致シテ居
レモノダゴザイマスカラ、脱ヲ取ラヌ、思

北山集卷之四

○男爵岩倉道興能ク分リマシタ、ソレ

デハ生命保険ノコトハ口頭デ宜シウゴザイ

マスカラ、書類ニ及ビマセヌカラ、御調ガ

付キマシタラ政府委員カラデ結構デゴザイ

マス

○委員長（伯爵林博太郎君） 三浦君、ドウ

カ先程ノ御繼續ヲ願ヒマス
○三輔新ニ付 話テ金口ゴ切ニキアニマ

三 治新十番 話方途中で切りテジマヒマシタノデ、城ニ詰方讀キガ惡クナレソデス

が、先程ノ御答譯デ、法人ノ負擔ガ相當ニ

卷之三

増加シテ居ルト云フコトノ御話デアッタ所
ノデアリマスガ、其ノ數字ガ昨日伺ツタ所
デヤサウ増加シテ居ナイヤウニアルノデア
リマス、何カ此ノ参考書類ノ中ニサウ云フ
數字ガ出テ居リマスルノデゴザイマセウ
カ、詰リ、但シ其ノ場合ニ於テデスナ、此
ノ臨時利得税ノ方ハ、是ハ兩方トモ掛カル
譯デアリマスカラ、是ハ又別ニ取り去ツテ考
ヘルコトガ至當ダラウト思ヒマス、詰リ當
リ前ノ普通ニ掛ル税率ニ付テドノ位增加シ
テ居ルカト云フヤウナ數字ガ出テ居リマス
カドウデスカ、ソレヲ御伺ヒシタイト云フ
コトト、ソレカラ又先程申上ゲマシタノ
ハ、個人ノ場合ト較ベテ多イトカ少イトカ
云フヤウナ見地デヤナカッタノデアリマス、
實ハ自分ノ考ハ、他ノ個人ノ場合ナリ、ソ
レカラ消費税ノ場合ナリ、相當高イ所迄來
テ居ルノデアッテ、今ノ状態デハ結局負擔能
力ノアル所ニ掛ツテ行クヨリ外ニ仕方ガナ
イノデヤナイカト云フ考カラシテ、今日ノ
状態デ一番負擔能力ノアル所ハサウ云フ方
面デヤナイカ、先程申上ゲマシタ通りニ近
頃ノ収益ノ舉ルベキ營業ト云フヤウナコト
ハ、皆サウ云フ方面、法人ノ方面デ經營セ
ラレルト云フコトニナリマスノデアリマス
カラ、サウ云フ方ノ負擔能力カラ考ヘテ見
テマダ相當餘裕ガアルノデヤナイカ、斯ウ
云フ點ガ私ノ質問ノ趣意デアッタノデアリ
マス、ソレカラモウ一ツ、先程申上ゲタコ
トニ對シテ、政府委員カラシテ、是迄ヨリ
モ法人ノ獨立性ト云フヤウナコトヲ高調セラレ
付テ獨立性ト云フヤウナコトヲ高調セラレ
タコトモアルノデアリマセウガ、唯此ノ普

通ノ個人ノ場合ニ於テ分類所得稅ト云フヤ
ウナモノヲ設ケテ、サウシテソレニ從ツテ
色々稅率ヲ變ヘテ行クト云フヤウナ工合ノ
居ラナイト云フ所ニ、詰リ自分ノ考デハ、
先程申上ゲマシタ法人ト云フモノノ利得ハ
配當其ノ他ノモノニ分配セラレヌト云フヤ
ウナ思想ガ現レテ居ルノデハナイカ、先程
申シマシタヤウナ工合ニ、段々總テノ仕事
ニ付テ、近世的ナ大キナ仕事ト云フモノハ
法人ノ仕事ニナツテ行ク譯デアリマスカラ、
個人ノ取得ニ於テ色々性質ノ違ツタ收入ガ
アルト同ジヤウナ工合ニ、法人ノ方ニ於テ
モサウ云フヤウナ現象ガアル譯デス、詰リ
段々單純ニ金ヲ儲ケルト云フダケデナシ
ニ、經濟上ノ相當ナ「ファンクション」ヲ別
別ニ盡スト云フヤウナコトノ爲ニ會社ガ出
來マス、殊ニ近頃ノヤウニ國策會社トカラ
ウ云フヤウナ性質ノモノガ段々増加シ、又
政府ニ於テ保護スル若シクハ其ノ方ニ資金
ヲ融通シテヤルト云フヤウナモノノ仕事モ
決ツテ來ル譯デアリマス、自ラ仕事ニ從ツテ
負擔能力ニ相違ガアル筈ニナツテ來ルノデ
アリマス、其ノコトヲ個人ニ付テ認メナガ
ラ法人ト云フ方面ニハ全然認メテ居ラナイ
ト云フヤウナ工合ニナツテ、片ツ方ノ方ヲ強
調シテ來ルト云フコトノ外ニ、法人ノ方ガ少
何ダカ影ガ薄クナツタ、其ノ方ノ考ヘ方ガ少
シ前トハ違ツテ來タノデハナイカト云フ工
合ニ疑ハシメルヤウナ工合ニナツタ譯ナン
デアリマス、質問ノ要點ハ、サウンマスト、
詰リ此ノ際直チニドウト云フヤウナ案ハ自
分ハ持ツテ居リマセヌガ、法人ト云フヤウ
ナモノニ付テモ分類所得稅的ナ負擔相當ナ

税率ノ變ツタモノヲ課スルト云フ御考ガア
ルカナイカ、ソレカラシテ今ノ先程御話ガア
アリマシタ法人ト云フモノハ個人ト達ツテ
累進税ヲ掛ケルベキ性質ノモノデヤナイト
云フコトハ、如何ニモ御尤モデアリマス、
是ハモウ言フ迄モナイコトデアリマスガ、
唯其ノ場合ニ丁度個人ノ累進所得税ニ當ル
ヤウナモノガ、今迄ノ超過利得税ト云フモ
ノデアツタノデアリマシテ、是ハ本來カラ
言フト、今ノ臨時利得税ノ性質ノモノデヤ
ナイカト云フ風ニ是迄考ヘテ居リマシタ課
ナンデアリマス、ソレガ臨時利得税ト一緒
ニナルト云フヤウナコトニツタ爲ニ、益
其ノ片方ノ方ノ法人ノ獨立性ト云フヤウナ
モノニ對シテ疑ヲ懷クヤウニナリマシタノ
デアリマスガ、詰リ此ノ超過利得税ト云フ
ヤウナモノガ、個人ニ於ケル片方ノ綜合合
得税ニ當ルト云フヤウナ工合ニ考ヘテ、居
ラレルノデアリマスカ、サウデナインデア
リマスカ、其ノ點ヲ一ツ事務當局ノ方カラス
伺ヒタイト思ヒマス

家屋税ト云フモノガアリマス、ソレカラ地
方税ニ於キマシテハ營業税ノ附加税、地租
附加税、家屋税附加税ト云フヤウナモノガ
アリマス、更ニ市町村民税是等ヲ通算致シ
マスルト云フト、現行法ノ下ニ於キマシテ
ハ十二億四千六百萬圓程ノ負擔デアリマス
ルガ、改正後ハ十三億七千三百萬圓程ニナ
リマシテ、其ノ増加ノ割合ハ大體一厘
トナシテ居リマス、ソレカラ法人ニ於キマシ
テハ現行法ノ下ニ於キマシテハ、第一種所
得税、法人營業収益税、法人資本税、臨時
利得税、第一種所得税附加税、法人營業收
益附加税ト云フヤウナモノガアリマシテ、
大體十一億四百萬圓程度デアリマスルガ、
改正後ニ於キマシテハ、法人税、臨時利得
税、營業税ト云フヤウナモノデアリマシテ、
十二億七千九百萬圓程度デアリマスルガ、
增加ノ割合ハ一割五分八厘ト云フ風ニナ
シテ居ルノデアリマシテ、個人ノ方ヨリモ法
カラ第一ト致シマシテ、個人ニ對シテ分類
所得税ヲ課税スルガ、法人ニ對シテモ分類
所得税ヲ課税シテ然ルベキモノデハナイカ
ト云フ御説デアリマスガ、是モツノ行キ
方ト存ジマス、「イギリス」「フランス」等ニ
於テハサウ云フヤウナ行キ方モシテ居ルヤ
ウデアルノデアリマスルガ、若シモ今回我
ガ國ニ於キマシテ、此ノヤウニ致シマスル
ト却テ法人ノ負擔が輕クナルノデハナカラ
ウカト存ジマス、ソレデ所得税ニ於キマシ
テ、御承知ノ通り一番税率ノ高イノハ、配
當利子税ノ百分ノ一ト云フコトニナシテ居
リマスガ、法人税ノ方ハ百分ノ十八ト云フ
ヤウナ税率ニナシテ居ルノデアリマシテ、寧

ロ法人ニ對シテ個人ト同様ノ分類所得税ヲ
負擔ヲ致サセルヨリモ、改定案ノ方ハ負擔
ガ重クナルコトニナルノデハナカラウカト
存ズルノデアリマス、サウ致シマシテ課税
標準ニ取入レル場合ニ法人ト個人トハ違ヒ
マシテ、法人ノハ一切入シテ來ルモノハ益金
ニ見ル、財產ノ處分益ト云フヤウナモノ、
或ハ評價増ト云フヤウナモノモ皆益金ニ見
ル、一方ニ於テ財產ノ處分損、評價減ト云
ブモノヲ損ニ見ルト云フコトニシテ居ルノ
デアリマスルガ、個人ニ於キマシテハ財產
ノ處分益或ハ處分損或ハ評價益或ハ評價損
ト云フヤウナモノハ、課税標準ニ入レナイ
ト云フヤウナ工合ニナシテ居リマシテ、ドウ
シテモ此ノ兩者ヲ同一ニ論ズル譯ニハ行カ
ヌト思フノデアリマス、結局個人ニ於キマ
シテハ、所得ノ種類ニ應ジテ負擔力ニ相違
ガアルカラシテ分類所得税ニ於テ税率ニ差
等ヲ設ケテ課税スルコトニナルノデアリマ
スガ、法人ニ於キマシテハ、全體ガ法人ノ
事業ヲ營ンデ行ク上ニ生ジテ來ル利益デア
リ損失デアルカラシテ、ソレヲ包括シ
マシテ利益ノ多寡ニ應ジテ課税シテ行
クト、斯ウ致スベキデアッテ、個人ノヤ
ニ所得ノ種類ニ從シテ税率ニ差等ヲ設
ケテ課税スルト云フ必要ハナイデハナ
モノデ、之ヲ兩者比較シテ重イトカ輕イト
モノデ、之ヲ兩者比較シテ重イトカ輕イト
カ言フ譯ニハ行カナイデヤナイカト思ッテ
居リマス

○三浦新七君 大體了解致シマシタ、唯分
類所得税ト云フモノガ法人ニハ不適當ナモ
ノデアルト云フコトニ付キマシテハ、モウ
一應御伺ヒシタイト思フ譯デアリマスガ、
シテ掛ケルノガ至當アアル、斯ウ云フヤウ
ルカラシテ、其ノ營業カラ生ズル所得ニ
ニ分類所得税ノ制度ヲ採ル必要ガナカラウ
ト認メタノデアリマス、ソレカラ超過所得
ニ對スル税ハ、個人ノ綜合所得税ニ相應ス
ルモノダト云フ御説デアリマスケレドモ、

モ個人ノ所得税ニ於キマシテハ、限界效用
マシテ、法人ノハ一切入シテ來ルモノハ益金
ニ見ル、財產ノ處分益ト云フヤウナモノ、
或ハ評價増ト云フヤウナモノモ皆益金ニ見
ル、一方ニ於テ財產ノ處分損、評價減ト云
ブモノヲ損ニ見ルト云フコトニシテ居ルノ
デアリマスルガ、個人ニ於キマシテハ財產
ノ處分益或ハ處分損或ハ評價益或ハ評價損
ト云フヤウナモノハ、課税標準ニ入レナイ
ト云フヤウナ工合ニナシテ居リマシテ、ドウ
シテモ此ノ兩者ヲ同一ニ論ズル譯ニハ行カ
ヌト思フノデアリマス、結局個人ニ於キマ
シテハ、所得ノ種類ニ應ジテ負擔力ニ相違
ガアルカラシテ分類所得税ニ於テ税率ニ差
等ヲ設ケテ課税スルコトニナルノデアリマ
スガ、法人ニ於キマシテハ、全體ガ法人ノ
事業ヲ營ンデ行ク上ニ生ジテ來ル利益デア
リ損失デアルカラシテ、ソレヲ包括シ
マシテ利益ノ多寡ニ應ジテ課税シテ行
クト、斯ウ致スベキデアッテ、個人ノヤ
ニ所得ノ種類ニ從シテ税率ニ差等ヲ設
ケテ課税スルト云フ必要ハナイデハナ
モノデ、之ヲ兩者比較シテ重イトカ輕イト
モノデ、之ヲ兩者比較シテ重イトカ輕イト
カ言フ譯ニハ行カナイデヤナイカト思ッテ
居リマス

○政府委員(大矢半次郎君) 「イギリスニ
於キマシテハ、法人モ個人モ同ジヤウナ課

稅ノ仕方ヲシテ居リマスガ、「イギリス」ニ
於テハ結局法人ニ對シテ課税スルノハ法人

ノ獨立性ヲ認メナイデ、個人デ納ムベキモ
ノヲ源泉デ課稅スル、斯ウ云フ趣旨カラ致
シマシテ、アノヤウニ致シテ居ルト思フノ
デアリマス、此ノ度ノ改正案ニ於キマシテ
モ、若シ「イギリス」流ニ、個人モ法人モ同
ジヤウニ分類所得稅ヲ課稅スルト云フコト
ニ致シマスレバ、法人ノ獨立性ハ非常ニ稀
薄ニナルト思フノデアリマスケレドモ、改
正案ノヤウニ、之ヲ切離シテ、法人ニ對シ
テ特別ノ課稅ヲスル、而シテ法人カラ受ク
ル配當及び重役賞與ト云フモノニ對シテハ、
個人ニ於テハ別個ニ又普通ノ分類所得稅、
綜合所得稅ヲ課稅スル、斯ウ云フ立前ヲ以
テ取ツテ居ル以上、私ハ寧ロ今回ノ改正案ハ
三浦サンノ仰セニナル法人ノ獨立性ヲ強ク
描出シテ居ル、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマ
ス

能ク了承致シマシタガ、其ノ歳出ノ中節約
スペキモノガアツタナラバ、是ハ先程速記ヲ
止メテノ御答辯ガアリマシタガ、是ハ將來
ノコトデゴザイマスカラ、今御明答ノナイ
ノハ御無理モナイト思ヒマス、實行豫算編
成等ノ問題ガ尙残リマスケレドモ、暫クソ
レハ論ジマセヌ

○國務大臣(櫻内幸雄君)――

○河田烈君 此ノ機會ニモウ一點、八條子
爵トノ質問應答ニ付キマシテ、幸ヒ大臣モ
居ラレマスカラ伺ヅテ見タイト思ヒマス、遊
興税ノ部分ニ付テ、當分ノ字ヲ削ラレタ理
由ニ付キマシテ、是ハ遊興税ハ當分ノ趣旨
ニアラズシテ、將來國稅トシテマア收入モ
多イシ、相當國稅トシテモ取ッテ宜イモノデ
アルト云フヤニ聞エタ御答辯ガゴザイマシ
タガ、是ハ今八條子爵ハ遊興税ト云フ稅ゾ
レ自身ガ餘り面白クナイ稅ダト云フ見地力
ヲ御話ガアリマシタノデスガ、今度ノ改正
ヲ見マスト、或ハ調査漏ガアルカモ知レマ
セヌガ、單リ遊興税ノミナラズ、建築稅デ
アリマストカ、入場稅デアリマストカ、マ
ダアツタカモ知レマセヌガ、要スルニ大體方
針ガ支那事變特別稅法中ノ一時、臨時ニ「當
分ノ内本法ニ依リ」云々タ現行法ニナッテ居リ
マスノヲ、各獨立シタ稅法ニ改メラレタ趣
旨デヤナイカト思ヒマス、ソコ迄御質問申
上ゲル迄モナク、私ハサウダラウト想像致
シマス、サウシマスト單リ遊興稅ノミナラ
ズ、現行法ノ支那事變特別稅法中ニ掲ゲタ
遊興稅、建築稅、入場稅等何レモ支那事變特
別稅法ノ第一條ニ「當分ノ内本法ニ依リ」云々
マスカラ、同ジ取扱ヒニナッテ居ルト思ヒマ
ス、サウ致シマスト、現行法迄ハ、即チ前

ノ議會迄ト申シマスカ、今日迄支那事變特
別稅トシテ一時的ノ稅デアッタモノヲ、此處
デ之ヲ改メ、當分ニアラズシテ恆久性ヲ帶
ビタル所ノ國稅トセラレルト云フ御方針ニ
ナツタト解釋シマス、サウナリマスト、相當
ニ建築稅ノ性質、入場稅ノ性質、問題ニナ
リマシタ遊興飲食稅ノ性質ニ付テモ、十分
御檢討ガアッタ上ダト思ヒマス、支那事變特
別稅法中ニ遊興飲食稅ヲ加ヘラレタノハ前
期議會ニアッタカ、或ハ前々議會ニアッタカ
チヨット忘レマシタガ、大分遊興稅ハ面白ク
ナイト云フ議論ガ出テ、又遊興稅ガ面白ク
ナイノミナラズ、遊興稅ハ是ヘ地方稅ノ性質
ノモノデヘナイカト云フヤウナ御議論ガ、矢
張リ此ノ稅法委員會ニ於テアッタ、其ノ時大藏
當局モサウ云フ議論モ出來ルト思フケレド
モマア國稅ノ性質ニ合ハナイモノヂヤナイカ
ラト云フ御議論デアリマシタガ、マア一ツ
ヤツテ見ルノデスナ、ト云フヤウナ御言葉ガ
アッタノデアリマス、ソレハ甚ダ大藏當局ト
シテ穩當ナラザル御意見ダト私ハ思タノ
デアリマス、政府ガ考究シテ國稅トシテ既
ニ掲ゲタモノヲ、之ヲ長ク國稅ニシテ置ク
ノカ、或ハ地方ノ方へ戻スノカ、アヤフヤ
ナコトデ此ノ稅法ヲ出サレルト云フコトハ
甚ダ國民ハ無論ノコト、地方トシテモ迷惑
千萬ノ話、絶エズ時勢ノ變遷ニ依リ、或ハ
翌年直グ之ヲ改正スル必要ガ起ルカモ知レ
ヌケレドモ、稅法ヲ出サレル當時ニ於テハ、
其ノ性質ニ鑑ミ暫ク地方稅ニハセズ、矢張
リ國稅トシテ適當ナルモノト云フ自信ガ、
アッタレバコソ掲ゲラレタモノト思フ、ソレ
ヲ此ノ法案ヲ提出シテ置キナガラ、或ハ地
方稅ガ適スルカモ知レナイ、マア國稅トシ
テヤツテ見マスト言ダタヤウナアヤフヤナ自

信ノナイコトデ税法ヲ濫リニ……ト言ジテ
ハ甚ダ相濟ミマセヌガ、提出セラレルコト
ハ甚ダ面白クナイト云フコトヲ申上ゲタノ
デ、大藏當局ハソレハ言葉ガ過ギタノデ、
サウデハアリマセヌトスウ云フ云フ御話デ
アリマシタ、ソレデ私共安心致シマシタ、
ソレ等ノ沿革カラ考へテ見マシテ、今八條
子爵ノ御質問ニ於テモ觸レマシタ如ク、此
ノ遊興飲食稅ト云フモノハ、國稅ニ適セル
モノナリト云フ御自信ガ政府ニ於テ愈、以テ
御附キニナツタモノト、斯ウ察シマスノデス
ガ、左様心得テ宜シウゴザイマスカ
○國務大臣(櫻内幸雄君) 遊興稅ハ沿革的
ニハ地方稅デ發達致シタモノデアルコトハ
申ス迄モナインデアリマスガ、稅種トシテ、
國稅トシテハ不適當ダト云フ風ニモ考ヘナ
イノデアリマス、昨年邊リノ御議論ノ點モ
能ク承知シテ居リマセヌノデ、此ノ點政府
委員カラ御答へ致シマス
○政府委員(大矢半次郎君) 只今ノ遊興飲
食稅ヲ國稅トシテ決メルノハドウカ、ト云
フコトニ付キマシテ色々御意見ガアッタノ
デゴザイマスルガ、只今河田サンモ御述ニ
ナリマシタ通り、結局ニ於テ國稅トシテ必
ズシモ不適當ダト云フ譯デハナイト云フコ
トニ落著シタト思フノデアリマス、而シテ
此ノ度ノ増稅ニ依リマシテモ稅收入トシテ
一億圓以上ニモナリ、國庫ノ財源トシテモ
相當大キイモノデアルト思ヒマスシ、ソレ
カラ消費稅ノ性質カラ見マシテ、寧ロ地方
稅トシテ置クヨリハ國稅トシテ置クノヲ適
當カト考ヘル次第アリマス
○河田烈君 御議論ニ付テハ多少意見モゴ
ザイマスケレドモ、政府ノ御考ノコトハ分
リマシタカラ是以上質問致シマセヌ

テ是レダケヲ獨立ニ見テ綜合累進稅率ヲ課稅スル、斯ウ云フ風ナ政府ノ案ニナッテ居リマタシノヲ、衆議院ニ於キマシテハ是デハ稍、苛酷ニ失スルカラシテ、現在山林所得ノ課稅ニ於テ適用シテ居ルト同ジヤウニ、他ノ所得ト分別致シマシテ此ノ所得ヲ見テ、サウシテ其ノ所得ヲ五分致シマシテ、五分シタ金額ニ超過累進稅率ヲ以テ一應金額ヲ出シマシテ、ソレヲ更ニ五倍シタモノヲ以テ稅額トスル、斯ウ云フ風ニ修正シタ譯ニアリマス、之ニ依リマシテ平年度百八十三萬六千圓ノ減、初年度ハ増減ゴザイマセヌ、次ニ水產所得ハ過去三年平均ノ實績ヲ以課稅スルコト、政府ノ原案ニ依リマスト總テノ所得ハ前年度ノ實績ニ依リ課稅スルコトニ致シテ居ルノデアリマスガ、衆議院ニ於キマシテハ水產ノ所得ハ年々ニ非常ニ波動ガアルモノデアルカラシテ或數年間ヲ平均シテ課稅スルノガ妥當ダ、斯ウ云フ意味ヲ以チマシテ過去三年間ノ平均ノ實績ニ依シテ、即チ普通ノ法人稅ニ對シマシテ政府案ハ其ノ半額程度ノ課稅デゴザイマシタノヲ、三分ノ一定程度ノ課稅ニ致シタ譯ニアリマス、初年度モ矢張り七十四萬二千圓ノ減收デゴザイマス、其ノ次ニ法人ノ繰越缺損金ヲ三箇年遡及シテ、控除スルコトナシテ居リマスノハ、政府ノ案ニ於キマシテハ新シイ法人ノ繰越缺損ハ前一年以内ニ生ジタモノハ之ヲ當期ノ益金カラ控除シテ計算スルト云コトニナシテ居タノデアリマスガ、衆議院ニ於キマシテハソレダケデハマダ足ラナイカラシテ、三箇年間遡及シテ控除スルヤウニト云フ修正デゴザイマス、是ハ法人稅ト臨時利得稅ト營業稅等ニ付テ總テ該當スルノデアリマスガ、平年度七百一萬九千圓、初年度三百五十萬九千圓ノ減

收デアリマス、其ノ次ニ雜誌等ニ對スル營業稅ノ免除デアリマスガ、是ハ從來ハ新聞紙法ニ依ル出版ニ對シマシテハ、營業收益稅ハ總テ免稅シテ居タノデアリマスガ、此ノ度ノ改正案ニ於キマシテハ月三回以下ノ發行ノモノニ對シテハ營業稅ヲ免除シナイト云フ案デアッタノデアリマスガ、之ヲ矢張リ從來通り新聞紙法ニ依ル出版ニ對シテハ、全部免稅スルヤウニ云フコトニ修正サレタノデアリマス、是ハ平年度三萬八千圓、初年度二萬三千圓ノ減收デゴザイマス、ソレカラ次ニ特別法人稅ノ稅率ヲ輕減シ剩餘金年三分以下ノ免稅ヲ聯合會等ニモ及スコト云フノデアリマスガ、是ハ所謂產業組合、商業組合等ニ對スル法人稅ノ課稅ニ付テデアリマス、政府ノ案ニ依リマスト云フト、剩餘金ニ對シテ百分ノ九ノ稅率デ以テ課稅スルト云フコトニナシテ居リマシタガ、衆議院ニ於キマシテハ之ヲ百分ノ六ト致シマシテ、即チ普通ノ法人稅ニ對シマシテ政府案ハ其ノ半額程度ノ課稅デゴザイマシタノヲ、三分ノ一定程度ノ課稅ニ致シタ譯ニアリマス、ソレカラ政府ノ案ニ於キマシテハ產業組合、商業組合等ノ單位組合、最下級ノ單位組合ニ對シテハ拂込濟額出資金ニ對シテ年三分以下トノ剩餘金ニ止マル場合ニ免稅スルト云フコトニ致シマシテ、聯合會トカ、中央會等ニ對シマシテハ之ガ適用ヲ致サナイ積リデ居マシタガ、衆議院ニ於キマシテハ聯合會、中央會等ニ對シテモ全部之ヲ適用スルヤウニト云フコトデゴザイマス、尙此ノ特別法人稅ニ付キマシテハ、事變終了後翌年末限リ廢止スルヤウニト云フ修正ガ加ッテ居リマス、之ニ依リマシテ平年度五十九萬二千圓、初年度十一萬八千圓ノ減デゴザイ

マス、其ノ次ハ相續稅デゴザイマス、相次等ノ入場者ト同様ニ、撞球場ノ入場者ニ對シテモ、其ノ稅率ヲ倍額、即チ百分ノ二十ニ致シテ居リマシタガ、衆議院ニ於テハ他人モノト違フカラシテ、是ハ現行ノ通り百分ノ十ヲ稅率ニ据置クヤウニト云フ風ノ修正シタノデアリマシタ、之ニ依シテ平場合ニハ全免スルコトトシ、十年以内ニ相場合ニハ半額ダケ免ズルト云フノデアリマス、是ハ從來通りデゴザイマス、ソレカラ次ハ撞球場ノ入場稅ニ付テデゴザイマス、政府ノ案ニ於キマシテハ、「ゴルフ」場等ノ入場者ト同様ニ、撞球場ノ入場者ニ對シテモ、其ノ稅率ヲ倍額、即チ百分ノ二十ニ致シテ居リマシタガ、衆議院ニ於テハ他人モノト違フカラシテ、是ハ現行ノ通り百分ノ十ヲ稅率ニ据置クヤウニト云フ風ノ修正シタノデアリマスガ、是ハ現行ノ通り百分ノ十七萬一千圓ノ減デゴザイマス、其ノ次ハ從業婦五人未滿ノ「カブエー」「バー」ニ付キマシテ、三圓ノ免稅點ヲ設クト云フノデアリマスガ、政府ノ案ニ依リマスト、總テ是等ノ特殊飲食店ニ對シマシテハ、免稅點ナシニ課稅スル案デアリマシタガ、地方ニ於ケル是等ノ業體ノ實際ニ鑑ミテ、此ノ程度ノ修正ヲ必要トスルト云フノデゴザイマス、之ニ依リマシテ平年度ニ四十九萬三千圓ノ減トナル次第デゴザイマス○委員長(伯爵林博士太郎君)ソレデヤ是ヨリ各論ニ付キマシテノ御質問ヲ願ヒマス

○子爵大河内輝耕君 ドナタモナイヤウデスガ、私ソレデヤ政府委員ニ質問ヲヤッテ居リマシテ、ドナタカ大臣ニ御質問ガ始メラレルヤウデシタラ直グ止シマスカラ……ドナタカ大臣ニ御質問ガオアリニナルナラバ……

骨董ニ於テ取ダテ居ル通り、競争入札ニ付シ

○橋本辰一郎君 私チヨット、宜シウゴザイ

マスカ

○委員長(伯爵林博太郎君) ドウゾ
○橋本辰次郎君 今度法人ニ對スル超過所
得税ト臨時利得税トヲ統合セラレマシタノ
デスガ、是ハソレドヘ性質ノ異ナルコトハ
十分御承知ノコトト思ヒマスノデ、別段ニサ
ウ説明ヲスル必要モナイト思ヒマス、是ハ
矢張リ別々ニ爲サツテ置ク方ガ、他日臨時利
得税ヲ廢止セラレル時ニ大變都合ノ好イヤ
ウニ私等ハ認メルノデアリマスガ、ドウ云
フ御考ノ下ニ之ヲ統合セラレタノデアリマ
セウカ

○國務大臣(櫻内幸雄君) 此ノ超過所得税

ト臨時利得税トヲ統合致シマシテ、一ツノ
稅ニ致シマシタノハ、何レモ所謂利益ノ多
イ方面カラ取ル稅デアリマスノト、ソレカ
ラ重複競合スル點等ガアリマスノデ、此ノ
際之ヲ統合シテ一ツノ稅ニシテ行クコトガ
適當デアラウトスウ云フ風ニ考ヘマシテ致
シタノデアリマシテ、御話ノ如ク一つハ超過
所得デアリマスカラ永續スベキモノニアリ、
片方ハ臨時利得税デアルカラシテ臨時のノ
モノデアル、斯ウ云フ意味カラ申シマスレ
バ、一つデモ差支ナイデハナイカト云フ風
ナ何モアリマスケレドモ、相當競合スルモ
ノガアリマスノデ、今回ハ單純化ヲ期スル
上ニ於テ只今申ス通リニ、提案致シタヤウ
ナ風ニ致シタ譯デアリマス

○橋本辰二郎君 課稅ノ簡單化ト云フコト

ハ大變結構デスガ、又簡單化スルモノニア
其ノ後御残シニナシタモノモ澤山アル折柄、
是ノミヲ統合セラレタト云フコトハ私等ハ
何分其ノ意ヲ得ナイヤウニ思ヒマスル、御
承知ノ通リ法人ノ超過所得ト云フモノハ、
是ハ一朝一夕ニシテ好成績ヲ擧ゲテ多分ノ

利益ヲ得ルト云フ迄ニハ容易ニ至ラナイノ

○政府委員(大矢半次郎君) 仰セノ通り超過所得ニ對スル稅ト、ソレカラ從來ノ臨時利得税トハ、粗ヒ所ガ遠フノデアリマスカ

思ヒマス

○國務大臣(櫻内幸雄君) 其ノ場合ニ於テ

サウ大シタ面倒ガ起ラズシテ實行ガ出來ル

○國務大臣(櫻内幸雄君) 御議論モアルト
思ヒマスガ、兎ニ角斯ウ云フ場合ノ整理統
合ヲ致ス際ニ稍似寄シタ稅デアリ、殊ニ只今
申ス通り、非常ニ兩方共重複スルヤウナ場合
モアリマスノデ、此ノ際一ツニシタカ宜カ
シタノデアリマシテ、御話ノヤウナ風ニ議論モ出
デアリマシテ、御話ノヤウナ風ニ議論モ出
ラウ、斯ウ云フ譯デ之ヲ統一シタヤウナ譯
ラウ、斯ウ云フ風ニ於キマシテ、臨時利得税ノ基
準年度ヲ變ヘルト同時ニ、之ヲ簡單化シタ
云フ御話デアリマシタガ、其ノ例ヲ一應御
示シヲ願ヒタイト存ジマス

○政府委員(大矢半次郎君) 是ハ衆議院ニ

於キマシテモ大分問題ニナリマシテ、相當詳シク御説明申上げテ置イタノデアリマス

シテハ、政府委員ノ方カラ申上げタイト

思ヒマス

○國務大臣(櫻内幸雄君) 其ノ場合ニ於テ

マシタノハ昭和十年デゴザイマス、而シテ

従來古キ法人デアリマシテ、昭和九年、十
年、十一年、即チ乙種利得ノ基準年度ニ於

スルガ、法人ノ所得稅ニ於キマシテハ、普

通所得ニ對スル稅率ヲ從來百分ノ五デアッタ
モノヲ臨時租稅增徵法ニ於テ百分ノ十二致

シタニ拘ラズ、超過所得ニ對スル稅率ノ引上

ハ當時致サナカツタノデアリマス、一面ニ於

過所得ニ對スル稅ト、ソレカラ從來ノ臨時利得税トハ、粗ヒ所ガ遠フノデアリマスカ

思ヒマス

○政府委員(大矢半次郎君) 仰セノ通り超過所得ニ對スル稅ト、ソレカラ從來ノ臨時利得税トハ、粗ヒ所ガ遠フノデアリマスカ

思ヒマス

○國務大臣(櫻内幸雄君) 其ノ場合ニ於テ

サウ大シタ面倒ガ起ラズシテ實行ガ出來ル

○橋本辰二郎君 御意見ノアル所ハ承りマ
シタガ、臨時利得税ナルモノハ、何レ時
ガ參リマシタナラバ、是ハ廢止セラレルト
ルガ、御承知ノ通リ臨時利得税ヲ創設致シ
マシタノハ昭和十年デゴザイマス、而シテ

アリマス、併シナガラ一方ニ於キマシテ、

從來古キ法人デアリマシテ、昭和九年、十

年、十一年、即チ乙種利得ノ基準年度ニ於

マシテハ、マダ〈負擔が輕イノデアリマシテ、斯ウ云フモノニ對シテハ相當稅率ヲ引上ゲナケレバナラヌト云フ事情ニアルノデアリマシテ、從ツテ一般的ニ増稅スル此ノ際ニ於キマシテ、ドウシテモ現行ノ態勢ノ儘デハイカナクナッテ、之ヲ根本的ニ改正致シマシテ、超過所得ニ對スル稅ト、ソレカラ利得ニ對スル稅トヲ相當調節スル必要ガアルト認メラレタノデアリマス、橋本サンノ仰セラレル超過所得ト云フノハ、是ハ其ノ人ノ効ニ依ツテ利益ヲ擧ゲルノデ、事變ノ影響ヲ受ケテ利益ヲ擧ゲルノト違フカラ別ニシテヤラナケレバナラヌト云フ御話デアリマスガ、是モ一應御尤モデゴザイマスケレドモ、實際ニ於キマシテ現在臨時利得稅ノ基準年度ニ於テ取ツテ居リマス昭和五年、六年、七年ニ於キマシテ相當高イ收益率ヲ擧ゲテ居ル、所謂超過所得ノ課稅ヲ受ケルト云フ法人ハ極メテ少ナイノテアリマシテ、極ク小サイ法人ニ於キマシテハ或程度デアリマスケレドモ、中位ノ法人、大法人等ニ於テハ殆ド超過所得ノ稅ヲ納メテ居ナイノデアリマス、デ昭和七年以降、滿洲事變發生以來、軍事工業ヲ中心ト致シマシテ、日本ノ經濟界方段々發展スルニ連レマシテ相當高イ收益率ヲ擧ゲル者ガ出テ來タノデアリマシテ、サウシテ支那事變發生以來、更ニ此ノ勢ヲ倍加シテハ來マシタケレドモ、鬼イノデアリマシテ、準戰時ト云ツテモ宜イカト思フノデアリマス、從ヒマシテ今日其ノ十一年ト云フモノハ決シテ是ハ平時デヤナリ益ヲ擧ゲテ居ル法人ハ、マア大部分ハ準戰時、及戰時ノ經濟界ノ下ニ於テ利益ヲ擧

ウ云フ意味カラ言ヒマスルト云フト、殆ド臨時利得税ノ課稅ノ對象ニナシテモ宜イモノカトモ存ズルノデアリマス、併シ恒久稅トシテハ鬼ニ角資本ニ對スル一定ノ利廻リ以上ノ利益ヲ舉ゲタ者ニ對スル課稅ヲ建前トシテ居ル超過所得ニ對スル稅ト云フモノヲ存置スル理由ガ十分アルノデアリマスカラシテ、今回ノ改正案ニ於キマシテハ、此ノ現段階ニ於キマシテ稅制ヲ編ムト致シマスルト云フト、此ノ兩者ヲ統合致シマシテ、サウシテ負擔ノ適正ヲ期スルト云フ風ニシタ方ガ宜カラウ、併シ事變モ終了致シマシテ、臨時利得稅廢止ノ場合ニ於キマシテバ、此ノ超過所得ニ對スル稅ト云フモノハ恒久稅トシテ存置シテ然ルベキデハナカラウカ、其ノ場合ニ課稅標準ノ取り方、稅率ヲドウ云フ風ニスルカト云フコトニ付キマシテハ、其ノ場合ニ適當トスル所ニ從ツテ決メテ行ク、斯ウ云フコトニナルノデハナカラウカト思ヒマス

ノ金額ダケデモ宜シウゴザイマスガ、即チ
是ハ各個ノ法人ニ取テ見マスルト云フト、
必ズシモ輕減ニナツテ居ナイノデアリマシ
テ、唯從來税率ノ刻ミ方ガ複雜ニナツテ居
リマスルガ、超過所得ニ對スル税率ノ最高ノ
所ト、臨時利得税ノ最高ノ税率ト、ソレニ
所得税及附加税ノ税率ト、營業収益税ノ税
率ト附加税ノ税率トヲ加ヘマシテ、最高ノ
所ヲ見ルト云フト、九三・八五トナリマシニ、
下ノ方ハ法人ニ於キマシテモサウ云フ高イ
税率ニナツテ居ナイ、平均致シマスルト矢張
リ百分ノ六〇トカ六五、斯ウナルト思フノ
デアリマスルガ、兎ニ角最高ノ所ヲ見レバ
百分ノ九三・八五ニナツテ居リマスカラシテ、
所謂從來屢言ハレテ居リマス如ク、幾ラ働
イテ利益ヲ澤山得テモ、殆ドミンナ税ニ持ツ
テ行カレルト云フヤウナ、今迄ノ税率ノ盛
リ方ガサウ云フ風ニナツテ居タカラ言ハレ
ルノデアリマシテ、此ノ度ハ其ノ高イ収益
率ノ法人ニ於キマシテモ、先づ臨時利得税
ヲ差引イタ残りヲ法人税ノ課税所得ニ見ル、
斯ウ云フ風ニ致シテ居リマス結果、其ノ法
人ノ全體ノ負擔トシテハ或程度重クナツテ
居リマスケレドモ、税率ノ最高ノ所ノモノ
ガドレ位掛カルカト云フ點ヲ見マスルト云
フト、先程申上ガマシタ通リ七三程度、斯
ウ云フ風ニナツテ居ル、斯ウ云フヤウナ次第
デアリマス

○政府委員(大矢半次郎君) 是ハ先程申上
ゲマシタ通り、資本金ニ對シテ年十割モ利
益ヲ舉ゲル法人デ、サウ云フ法人ハ數ニシ
テハ少イカト存ジマス、ソレカラサウ云
法人ニ付キマシテハ其ノ所得稅、臨時利得
稅ハ初期ノ損ニ從來ハ見ラレテ居リマスカ
ラシテ、初期ノ負擔ハソレガ爲ニ非常ニ輕
クナル、從ツテ當期ト翌期ノ負擔ヲ通算スル
ト、矢張リ半額以下ノ負擔ニナル、斯ウ云
フコトニナツテ居リマシテ、稅ノ負擔ハ四期
ヲ通ジマスルト云フト、ソンニ負擔ガ重
クナイニ拘ラズ、或一期ダケヲ見ルト云フ
ト百分ノ九三・八五モ取ラレル、幾ラ働くイテ
モ皆稅ニ持ツテ行カレルトスウ云フ聲ガ囂々
トシテ起ツテ居ル、ソレハ從來ノ課稅標準ノ
取り方ガ非常ニ不合理デアルカラシテ、今
度ハ所得稅、臨時利得稅ハ經費ニ見ナイ
デ、當該、事業年度ノ利得ノ中カラ支拂フ
ベキモノト、斯ウ致シマシテ負擔ノ適正ヲ
セシムルト、斯ウ云フ譯デアリマス

○橋本辰二郎君 只今ノ最高ノ課稅ヲ受ケ
ル者ハ十割以上ノ利益ヲ舉ゲルモノダト云
フト、多分ソレハソウデゴザイマセウガ、
法人ノ受ケル純收入ト云フモノハ、十割上
若シモ此ノ十割以上ノ利益ヲ舉ゲル者ガ此
ノ利益ヲ八割以下ニシマシタナラバ、其ノ
法人ノ受ケル純收入ト云フモノハ、十割上
ゲタヨリモ其ノ利益率ノ少ナイ方ガ割合ガ
非常ニ好イト云フ結果ニナリハシマセヌカ
カ、サウ云フ例モアリハシマセヌカ

○政府委員(大矢半次郎君) 私ノ申上ゲヤ
ウガ少シ不十分デ御分リニクイカモ知レマ
セヌガ、収益率ノ高イ法人ガデスネ、全部
百分ノ九三・八五ノ税率デ課税ヲ受ケルノデ
ハナクテ、其ノ所得ノ中ノ上積ミニナッテ居
ル一部ノ者ガサウ云フ高イ税率ノ課税ヲ受
ケルト、從ツテ上積ミニ所ニ更ニモウ少シ所
得ガ加ツテモ矢張リ其ノ所得ノ百分ノ九三・
八五ヲ稅ニ持ツテ行カレルト、斯ウ云フコト
ニナツテ、幾ラ働くモドウモ總テ稅ニ取ラ
レルカラシテ、或程度以上利益ガ舉ガタ場
合ニハモウ働く方ガ宜イ、或ハ濫費シ
タ方ガ寧ロマシダト、斯ウ云フ非難ガ起ツテ
額ニ對シテ計算シテ見ルト云フト、實際ハ
半額以下ニ止ツテ居タト、斯ウ云フ譯デアリ
マス

○橋本辰二郎君 サウスレバ法人ニセヨ、

個人ニセヨ利益ヲ餘計譽ガルダケ純收入ハ

多クナルト云フ結果ニナルノデアリマセウ
カ

○政府委員(大矢半次郎君) 其ノ點ハ正ニ

○橋本辰二郎君 是ハ此ノ程度デ宜シウゴ
ザイマスガ、之ニ引領キマシテ、私ハ此ノ
直接稅ト間接稅ノ割合調ヲ拜見致シマスル
ト、昭和十年ニ於キマシテハ、間接稅ガ五
八・一トナツテ、直接稅ガ三・九ト云フコト
ニナツテ居リマス、處ガ十四年デハ位置ヲ顛
倒致シマシテ、直接稅ガ五六・三、間接稅ガ
三九・三ニナリマス、尙十五年度ニ於キマシ
テハ、ソレガヨリ以上直接稅ガ間接稅ノ倍
以上ニナル、斯ウ云フコトニナツテ居リマス
ガ、由來財政ノ衝ニ當タル人トカ、一部ノ
學者連中ハ、直接稅ガ増シテ間接稅ガ減ル

ノヲ以テ理想トシテ居ルノガ大分多イト思
ヒマス、併シ私ハ斯ウ云フモノハ主義デモ
ナケレバ方針デモナイト云フ考ヲ持ツテ居
リマス、或場合ニ於テハ直接稅ニ重キヲ置
キ、或場合ニ於テハ間接稅ニ重キヲ置カナ
ケレバナラヌ、即チ非常ニ景氣ガ好クテ下
ノ方ニ澤山ノ金ガ撒布セラレタル場合ニ於
テハ、間接稅ニ重キヲ置イテ其ノ餘剩購買
力ヲ吸收スルト云フ手段ヲ執ル、而シテ非
常ナ不景氣ニ於テ、下ノ方ニ金ガ廻ラヌ場
合ニ於テハ直接稅ニ重キヲ置イテ、富豪階
級、即チ擔稅力ノアル者ヨリ取上ガル、斯
ウ云フコトニシナケレバナラヌト云フ私ハ
考ヘラ何時モ抱イテ居ルノデアリマス、ソ
レガ學説トカ、又ハ世間ノ、例ヘバ大衆ノ
歡迎ヲ受ケヨウトカ、同情ヲ受ケヨウトカ、
喝采ヲ受ケヨウトカ云フ者ハ、間接稅ヲ減
セ減セト言ヒマスケレドモ、苟モ政治ヲヤ
ル人ト云フモノハ、サウ云フコトニ耳ヲ藉
スペキデハナイト思ヒマス、實際ニ於テ例
ヘバマア財政政策ニ於テ積極策トカ消極策
トカ言ヒマスルケレドモ、對象ハ其ノ經濟界
ノ實情デアル、其ノ經濟界ノ實情ニ即シテソ
レニ對應スル所ノ適切ナル稅制ヲ定ムルト
云フコトガ最モ必要デアル、ダカラ直接稅
モ間接稅モナイ、詰リ要ハ經濟界ノ實情ヲ
能ク見透シテ、サウシテ其ノ觀測ヲ誤ラズ
ニ、或ハ間接稅ニ、或ハ直接稅ニ重キヲ置
ク、斯ウ云フコトデナケレバ本當ナ增稅ノ
收入、竝ニ「インフレーション」トカ、其ノ
他ノ防止ガ出來スト云フヤウナ考ヲ私ハ
持ツテ居リマスガ、大藏大臣ハドウ云フ御考
デアリマセウカ

○國務大臣(櫻内幸雄君) 直接稅ト間接稅ノ問題デアリマスガ、是ハ御承知ノ通リ直

接稅ノ方ガ今回多クナリマシテ、間接稅ガ
ノヲ以テ理想トシテ居ルノガ大分多イト思
ヒマス、併シ私ハ斯ウ云フモノハ主義デモ
ナケレバ方針デモナイト云フ考ヲ持ツテ居
リマス、或場合ニ於テハ直接稅ニ重キヲ置
キ、或場合ニ於テハ間接稅ニ重キヲ置カナ
ケレバナラヌ、即チ非常ニ景氣ガ好クテ下
ノ方ニ澤山ノ金ガ撒布セラレタル場合ニ於
テハ、間接稅ニ重キヲ置イテ其ノ餘剩購買
力ヲ吸收スルト云フ手段ヲ執ル、而シテ非
常ナ不景氣ニ於テ、下ノ方ニ金ガ廻ラヌ場
合ニ於テハ直接稅ニ重キヲ置イテ、富豪階
級、即チ擔稅力ノアル者ヨリ取上ガル、斯
ウ云フコトニシナケレバナラヌト云フ私ハ
考ヘラ何時モ抱イテ居ルノデアリマス、ソ
レガ學説トカ、又ハ世間ノ、例ヘバ大衆ノ
歡迎ヲ受ケヨウトカ、同情ヲ受ケヨウトカ、
喝采ヲ受ケヨウトカ云フ者ハ、間接稅ヲ減
セ減セト言ヒマスケレドモ、苟モ政治ヲヤ
ル人ト云フモノハ、サウ云フコトニ耳ヲ藉
スペキデハナイト思ヒマス、實際ニ於テ例
ヘバマア財政政策ニ於テ積極策トカ消極策
トカ言ヒマスルケレドモ、對象ハ其ノ經濟界
ノ實情デアル、其ノ經濟界ノ實情ニ即シテソ
レニ對應スル所ノ適切ナル稅制ヲ定ムルト
云フコトガ最モ必要デアル、ダカラ直接稅
モ間接稅モナイ、詰リ要ハ經濟界ノ實情ヲ
能ク見透シテ、サウシテ其ノ觀測ヲ誤ラズ
ニ、或ハ間接稅ニ、或ハ直接稅ニ重キヲ置
ク、斯ウ云フコトデナケレバ本當ナ增稅ノ
收入、竝ニ「インフレーション」トカ、其ノ
他ノ防止ガ出來スト云フヤウナ考ヲ私ハ
持ツテ居リマスガ、大藏大臣ハドウ云フ御考
デアリマセウカ

○國務大臣(櫻内幸雄君) 資金ヲ集中致シ

接稅ノ方ガ今回多クナリマシテ、間接稅ガ
ノヲ以テ理想トシテ居ルノガ大分多イト思
ヒマス、併シ私ハ斯ウ云フモノハ主義デモ
ナケレバ方針デモナイト云フ考ヲ持ツテ居
リマス、或場合ニ於テハ直接稅ニ重キヲ置
キ、或場合ニ於テハ間接稅ニ重キヲ置カナ
ケレバナラヌ、即チ非常ニ景氣ガ好クテ下
ノ方ニ澤山ノ金ガ撒布セラレタル場合ニ於
テハ、間接稅ニ重キヲ置イテ其ノ餘剩購買
力ヲ吸收スルト云フ手段ヲ執ル、而シテ非
常ナ不景氣ニ於テ、下ノ方ニ金ガ廻ラヌ場
合ニ於テハ直接稅ニ重キヲ置イテ、富豪階
級、即チ擔稅力ノアル者ヨリ取上ガル、斯
ウ云フコトニシナケレバナラヌト云フ私ハ
考ヘラ何時モ抱イテ居ルノデアリマス、ソ
レガ學説トカ、又ハ世間ノ、例ヘバ大衆ノ
歡迎ヲ受ケヨウトカ、同情ヲ受ケヨウトカ、
喝采ヲ受ケヨウトカ云フ者ハ、間接稅ヲ減
セ減セト言ヒマスケレドモ、苟モ政治ヲヤ
ル人ト云フモノハ、サウ云フコトニ耳ヲ藉
スペキデハナイト思ヒマス、實際ニ於テ例
ヘバマア財政政策ニ於テ積極策トカ消極策
トカ言ヒマスルケレドモ、對象ハ其ノ經濟界
ノ實情デアル、其ノ經濟界ノ實情ニ即シテソ
レニ對應スル所ノ適切ナル稅制ヲ定ムルト
云フコトガ最モ必要デアル、ダカラ直接稅
モ間接稅モナイ、詰リ要ハ經濟界ノ實情ヲ
能ク見透シテ、サウシテ其ノ觀測ヲ誤ラズ
ニ、或ハ間接稅ニ、或ハ直接稅ニ重キヲ置
ク、斯ウ云フコトデナケレバ本當ナ增稅ノ
收入、竝ニ「インフレーション」トカ、其ノ
他ノ防止ガ出來スト云フヤウナ考ヲ私ハ
持ツテ居リマスガ、大藏大臣ハドウ云フ御考
デアリマセウカ

○國務大臣(櫻内幸雄君) 資金ヲ集中致シ

接稅ノ方ガ今回多クナリマシテ、間接稅ガ
ノヲ以テ理想トシテ居ルノガ大分多イト思
ヒマス、併シ私ハ斯ウ云フモノハ主義デモ
ナケレバ方針デモナイト云フ考ヲ持ツテ居
リマス、或場合ニ於テハ直接稅ニ重キヲ置
キ、或場合ニ於テハ間接稅ニ重キヲ置カナ
ケレバナラヌ、即チ非常ニ景氣ガ好クテ下
ノ方ニ澤山ノ金ガ撒布セラレタル場合ニ於
テハ、間接稅ニ重キヲ置イテ其ノ餘剩購買
力ヲ吸收スルト云フ手段ヲ執ル、而シテ非
常ナ不景氣ニ於テ、下ノ方ニ金ガ廻ラヌ場
合ニ於テハ直接稅ニ重キヲ置イテ、富豪階
級、即チ擔稅力ノアル者ヨリ取上ガル、斯
ウ云フコトニシナケレバナラヌト云フ私ハ
考ヘラ何時モ抱イテ居ルノデアリマス、ソ
レガ學説トカ、又ハ世間ノ、例ヘバ大衆ノ
歡迎ヲ受ケヨウトカ、同情ヲ受ケヨウトカ、
喝采ヲ受ケヨウトカ云フ者ハ、間接稅ヲ減
セ減セト言ヒマスケレドモ、苟モ政治ヲヤ
ル人ト云フモノハ、サウ云フコトニ耳ヲ藉
スペキデハナイト思ヒマス、實際ニ於テ例
ヘバマア財政政策ニ於テ積極策トカ消極策
トカ言ヒマスルケレドモ、對象ハ其ノ經濟界
ノ實情デアル、其ノ經濟界ノ實情ニ即シテソ
レニ對應スル所ノ適切ナル稅制ヲ定ムルト
云フコトガ最モ必要デアル、ダカラ直接稅
モ間接稅モナイ、詰リ要ハ經濟界ノ實情ヲ
能ク見透シテ、サウシテ其ノ觀測ヲ誤ラズ
ニ、或ハ間接稅ニ、或ハ直接稅ニ重キヲ置
ク、斯ウ云フコトデナケレバ本當ナ增稅ノ
收入、竝ニ「インフレーション」トカ、其ノ
他ノ防止ガ出來スト云フヤウナ考ヲ私ハ
持ツテ居リマスガ、大藏大臣ハドウ云フ御考
デアリマセウカ

マスレバ、只今申上ゲマシタヤウナサウ云
フ感ジガ起ラザルヲ得ナイノデアリマスガ、
大藏大臣ハ此ノ點ニ付キマシテドウ云フ御
考デアリマセウカ
○國務大臣(櫻内幸雄君) 資金ヲ資本化シ
テ居ル資本家ヲ優遇シナケレバナラヌノ
ニ、資本家ノ多額所得者ニ對シテ重課ヲ致
シテ居ル事柄ハドウモ不合理デハナイカト
云フヤウナ御議論ノヤウニ思ヒマスガ、外國
ニ比シテ日本ガ非常ニ高稅デアルト云フ風
ナ統計ヲ昨今出シテ、サウシテ之ヲ配布シテ
居ルヤウナ向キモアリマスケレドモ、實際
ノ統計ヲ調べテ見マスルト、日本ノ高額所
得者ガ外國ニ比シテ、ソレ程高額ニナッテ居ル
ト云フコトハ、私共考ヘナイノデアリマス、
ソレ等ノ點ニ付キマシテ、色々ナ調査モ致
シテ居ルノデアリマスルケレドモ、外國ニ
比シテドコ迄高額デアルト云フ風ナコトハ
考ヘテ居リマセヌ、ソレカラ資金ヲ集中致
スノ途ニ付キマシテハ、是ハ義ニモ申上ゲ
マシタ通り、貯蓄ノ方面ニ於テ非常ナ努力力
ヲ致シマシテ、今日ト雖モ小サナ所得者カ
ランシテ零細ナ金ヲ集メテ資本化シテ居ルモ
ノモ相當巨額ニナッテ居リマス、一例ヲ申セ
バ、是ハ主トシテ公債ノ資金ニナッテ居リマ
スケレドモ、郵便貯金ノ如キハ昨年ニ於テ
十一億數千萬圓モ殖エテ居ル、サウシテ是
等ハ人間ノ數カラ申シマスト殆ド國民全體
シマシテモ年々其ノ人ノ數ガ殖エテ參リマ
シテ、昨年ノ如キハ五十九億七千萬圓カラ
ノ金額ガ殖エテ居ル、是ハ無論相當ナ預金
者モアルデアリマセウケレドモ、小サナ零

細ノ預金ヲモ中ニ合シニ居ルノデアリマシテ、サウ云フコトガ資金化シテ參ッテ居ルノデアリマス、是等ノ資金ノ中カラ昨年ニ於キマシテハ新タニ企業シタモノガ四十二億圓カラニ上ツテ居ルト云フ、風ナ狀態デアリマスノデ、零細ナ資金ガ相當集中サレテ資本化シテ居ルト云フコトモ實際事實デアリマス、唯御話ノ高額所得者ガ稍、税金ノ重キ負擔ニ任ジテ居ルト云フコトハ是ハ争ハレナイ所デアリマスガ、今日ノ時勢ト致シマス、其ノ税ヲ取ッタ結果ガソレ等ノ資本家ルト云フコトハ、是ハ時節柄已ムヲ得ヌコトデアラウト、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、其ノ税ヲ取ッタ結果ガソレ等ノ資本家ノ人々ガ企業ヲスル力ガ弱ルト、斯ウ云フ風ナ御議論モアルト思ヒマズケレドモ、大體ニ於テ兎ニ角多ク收入ガアッタ場合ニ於テ多ク負擔ヲシテ戴クト云フコトハ、是ハドウモ已ムヲ得ナイ事柄デアルト思フノデアリマシテ、所謂累進課税ト云フコトヲヤッテ居ルヤウナ次第デアリマス、外國ニ於ケル所ノ負擔ノ状況ト、日本ニ於ケル負担ノ状況トヲ、御都合ニ依リマシテハ表ニシテ差上げゲテ御参考ニ供シタイト思ヒマス○橋本辰二郎君 私ノ最後ノ質問ハ實ハ私ノ信念ヨリ出タモノデナインデアマスガ、御答辯ニ依リマシテ御意思ノアル所ダケ承リマシタ、私ノ大體ノ質問ハ是デモウ時間モ参ッタヤウデアリマス、控ヘテ置カウト思ヒマス○野村德七君 チヨット伺ヒマス、法人税ヲ損失ト見テ欲シイト云フコトハ可ナリ強イ要求ガアツタヤウデアリマス、併シ法人税ヲ損失ト見做スト云フコトデ計算サレマスト云フト、今回ノ増税ノ目的ノ五分ノ一位ヲ

失フト云フコトニアリマス爲ニ、是ハ到底御同意ニナラヌコトデアリマス、又稅ノ性質論カラ色々議論モアルコトデアリマスガ、併シ此ノ問題ハ此ノ度ハ消エテモ、恐ラク私ハ將來殘ツテ行クダラウト思フ、確カ「フランス」カト承知スルノデアリマスガ、「フランス」デモ初メハ法人稅ニ對シテ問題ガアリマシテ、政府ハ損失ト認メナカッタノデアリマスケレドモ、其ノ後連續サレタ要求ノ結果、今日デハ確カ之ヲ損失ト認メテ居ルト思ヒマス、將來自然增收モアリマシテ、相當政府ノ收入ガ增加シタ場合ニハ、相當考慮シヨウト云フヤウナ御考ヲ今日カラ持ツテオイデニナルト云フコトノ御明言ヲ得タイト云フノデアリマセヌケレドモ、今日ノ場合ハドウシテモ之ヲ損失ト認メルコトハ増稅ノ目的カラ云フテモ餘程大キナ額ヲ失フ爲ニ、到底出來ヌコトデアリマスケレドモ、恐ラク是ハ前ニモ述ベマシタヤウニ、此ノ運動ハ將來ニモ繼續サレルト思ヒマス、併シ將來相當自然増收、其ノ他ノ稅ノ增收ヲ見マシタ場合ニハ、相當考慮シテモ宜イト云フヤウナ御考モ御持チニナッテ居ルノカ、所謂政府ハ只今ハ絶對的デアルガ、尙相當此ノ問題ニ付テハ考究シテ居ルト云フ御考デアリマスカ、伺ツテ置キタノデアリマス

申シマスト、税ハ當然其ノ事業ヲ爲ス爲ニ
必要ナモノデアリマスカラ、是ハ經費トシ
テ差引イテ、ソレカラ利益ヲ出スベキモノ
ダ、之ガ正當アル、斯ウ云フ風ナ所謂議
論ガ立ツノデアリマス、私モ多年財界ニ居
リマシタ關係上、其ノ點ガ頭ニコビリ著イ
テ居リマシテ、非常ニ議論モシタヤウナ譯
デアリマスガ、之ヲ靜カニ冷靜ニ考ヘテ見
マスト、今回ノ改正案ノ方ガ、當然デアル
ヤウニ考ヘラレルノデアリマス、即チ此ノ
稅ヲ掛ケマス目標ハ何デアルカト云フト、
其ノ會社ノ利益金ガアツテ初メテ其ノ利益
金ニ課稅スル譯デアリマス、勿論此ノ拂込
資本金ニ關シマシテハ課稅ヲ致シテ居リマ
スガ、主タルモノハ利益金ヲ目標ト致シマ
シテ課稅ヲ致スコトニナッテ居ルノデゴザイ
マス、從ヒマシテ之ヲ或會社ガ收入ノ中カ
ラ支出ヲ引イテ、サウシテソニ純益ガ出
ル、純益ガ出タ時ニ、其ノ純益ヲ或ハ積立
金トシ、或ハ配當準備金トシ、或ハソレヲ
配當金トシ、或ハ後期繰越金ト爲ス、ソレ
ト同ジヤウナ意味ニ於テ此ノ稅金ヲ利益金
ニ比例シテ拂出スト云フ事柄ガ、ソレガ先
づ正當デアラウ、斯ウ思ハレマシタノデ、
自分ノ考ヲ撤回致シテ原案ニ賛成致シタヤ
ウナ譯デアリマス、詰リ利益金ヲ基源ト致
事柄ハ利益金ニ課稅セラレル稅金ヲ豫想シ
テ豫メソレヲ引クト云フコトニナルノデア
リマシテ、非常ニソコニ矛盾ガ起シテ來ル、
之ヲ今日餘リ堅實ナラザル會社ノ如ク、翌
期ニナツテ前期ニ於テ決定セラレタル稅額
ヲ拂出シテ、其ノ期ノ經費ヲ出スト云フコ

トニナリマスト、ソレハ相當正確ニ參リマ
スケレドモ、是ハ實際問題トシテ不合理ナ
點ガ起ルコトハ、是ハ私例ニシテ申シタイ
ノデアリマスガ、此處デハ無論會社ハ繼續
期デ解散スル會社ガアツト假定致シマス、
其ノ時ニ、其ノ次ノ期ニナツテ其ノ時ダケノ
利益ハ皆其處デ分配シテシマウト云フコト
ニナルト、其ノ利益金ヲ次ノ期ニナリマシ
テ配當スル金ガ無クナツテシマウノデアリ
マスカラ、解散ラスル場合ニ於テハドウシ
テモ利益金ノ引當金ト云フモノヲ控除シナ
ケレバ計算ガ出來ナイコトニナルノデアリ
マスカラ、會社ノ計算トシテハ、チヤント
其ノ期、其ノ期デ繕算ノ出來ルヤウニ致ス
コトニスルコトガ計算上正確デアルト考ヘ
ラレマスノデ、今日相當堅實ナ會社ガ稅金
引當金ヲ取ルト同ジ意味ニ於テは計算致
スベキモノト斯ウ考ヘラレマス、詰リ配當
金ノ取扱ト同ジ意味ニ於テ利益金ヲ取扱ッ
テ行クコトガ寧ロ正當デハナイカ、斯ウ云
フ風ニ考ヘマシテ、自分ノ主張ヲ撤回シタ
譯デアリマス、今野村サンノ御話ニ「フラン
ス」ニ於テ云フ御話デアリマシタガ、今
ハ確カ「フランス」ダケデアツト思ヒマ
ス、他ハ皆矢張リ今回提案ラシタ案ニ依ッ
テ、所謂稅ト云フモノハ其ノ利益ニ對シテ
課稅ラシテ居ルト云フコトノ實情ニナツテ居
ルヤウナ譯デアリマシテ、從ヒマシテ將來ニ於
テ稅込、稅引ノ問題ヲ殘シテ置イテ、更ニ研
究考慮ラスルト云フヤウニハ考ヘテ居リマセヌ
ノデ、矢張リ此ノ機會ニ於テキチント此ノ稅
ノ本則ニ則ツタガ宜カラウトス様ニ考ヘテ居
リマス、尤モ今回ノ増稅ニ當リマシテ、此ノ點ニ
付キマシテハ非常ニ考慮ヲ致シマシテ、元

ト云フト法人税ノ利得ニ對スル割合ハ百
分ノ十七・四五ト云フモノニナリマス、之ヲ
十八ニ致シタノニアリマス、從ヒマシテ其
ノ上ガタ割合ト云フモノハ極メテ少イノデ
アリマシテ、他ノ割合カラ申セバ大抵ノ税
金ガ二割、三割上ツテ居ルノニ對シテ、此ノ
モノニ對シテダケハ殆ド以前ノ金額ト上ツテ
居ナイヤウナ割合ニナツテ居リマス、尤モ拂
込資本ニ對スル分ハ千分ノ一ニヲ千分ノ
一・五ニ上ゲテ居リマスガ、片方ノ根幹トナ
ルベキ方ハ今申上ガマスルヤウニ殆ド上ゲ
テ居ナイノニアリマス、是ハドウ云フ譯デ
アルカト申シマスト、詰リ税込、税引ノ關
係上一割何分カ上ツテ參リマスノデ、ソレガ
要スルニ增收ヲ見込ム財源トナツテ居ルノデ
アリマシテ、是ハ極端ナ例ヲ申シマスガ、
若シ衆議院ニ一時議論ガアリマシタ如ク、
此ノ問題ヲ現行法通りニ致シマスト、臨時
利得税ヤ、其ノ他ノ關係上減税ニ却テナル
ヤウナ結果ニナルノデアリマス、此ノ税引
税込ノ關係ニ於テ今回ノ增收ガ出來ルコト
ノ結果ニナツテ居ルヤウナ譯デアリマシテ、今
之ニ對シテ之ヲドウ變ヘルカト云フ風ナコ
トヲ考ヘテ居ルト云フ風ナコトハゴザイマ
セヌ、此ノ事ヲ申上ガマス
○野村徳七君 速記ヲ止メテチヨット御尋
シタイ
ス
〔速記中止〕

出席者左ノ如シ		午後四時一分散會		○委員長(伯爵林博太郎君)		テ注意致シタイト思ヒマズ	
委員長	副委員長	委員	委員長	伯爵林	博太郎君	時開會致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス	
公爵島津忠重君	侯爵細川護立君	子爵青木信光君	子爵大河内輝耕君	子爵八條隆正君	子爵高橋是賢君	男爵赤松通陽君	伯爵二荒芳徳君
侯爵筑波藤麿君	伯爵岩倉道俱君	通陽君健藏君	輝耕君健藏君	伊江朝助君	高橋是賢君範一君	赤松通陽君範一君	岩倉道俱君
中川	坂野鉄次郎君	元君	新七君	烈君	久徴君	元君	坂野鉄次郎君
男爵伊江	三浦新七君	西野元君	河田烈君	土方久徴君	久徴君	西野元君	伊江朝助君
男爵岩倉	瀧澤元君	今井元君	久徴君	金藏君	五介君	瀧澤元君	岩倉道俱君
朝助君	元君	真平君	烈君	金藏君	真平君	元君	朝助君
坂野鉄次郎君	新七君	真平君	烈君	金藏君	五介君	瀧澤元君	坂野鉄次郎君
三浦新七君	河田烈君	元君	久徴君	金藏君	真平君	元君	三浦新七君
瀧澤元君	烈君	久徴君	烈君	金藏君	五介君	瀧澤元君	河田烈君
今井元君	久徴君	真平君	烈君	金藏君	真平君	元君	今井元君
松本	烈君	真平君	烈君	金藏君	五介君	瀧澤元君	松本
磯野	烈君	真平君	烈君	金藏君	真平君	瀧澤元君	磯野
安宅	烈君	真平君	烈君	金藏君	五介君	瀧澤元君	安宅
野村	烈君	真平君	烈君	金藏君	五介君	瀧澤元君	野村
德七君	烈君	真平君	烈君	金藏君	五介君	瀧澤元君	德七君
橋本辰二郎君	烈君	真平君	烈君	金藏君	五介君	瀧澤元君	橋本辰二郎君
彌吉君	烈君	真平君	烈君	金藏君	五介君	瀧澤元君	彌吉君
庸幸君	烈君	真平君	烈君	金藏君	五介君	瀧澤元君	庸幸君
安宅	烈君	真平君	烈君	金藏君	五介君	瀧澤元君	安宅
野村	烈君	真平君	烈君	金藏君	五介君	瀧澤元君	野村

午後四時一分散會
出席者左ノ如シ

○委員長(伯爵林博太郎君) 明日ハ午前十時開會致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

國務大臣

外務大臣 有田 八郎君
大藏大臣 櫻內 幸雄君

大藏政務次官 木村 正義君

大藏省主稅局長 大矢半次郎君

入間野武雄君

氏家 武君

田中 豊君

山田 義見君

松隈 秀雄君

營繕管財局理事

大藏政務次官 木村 正義君
大藏省主稅局長 大矢半次郎君
入間野武雄君

大藏書記官 同

同

入間野武雄君

氏家 武君

田中 豊君

山田 義見君

松隈 秀雄君

營繕管財局理事 同

山田 義見君

松隈 秀雄君